

リアホナ



**宗教的多様性のある世において
平和を追求する, 24 ページ**

ペテロのキリストに対する証が
どのようにわたしたちに語りかけて
いるか, 18 ページ

新しい教会歴史シリーズをのぞいて
みましょう, 30, 32 ページ



「皆さんがいつも主を
覚えるという約束を
どれほどよく守っているかに
かかわらず、主はいつも
**皆さんのことを
覚えておられます。**」

ヘンリー・B・アイリング管長



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
いつも御子を覚える
ヘンリー・B・アイリング管長
- 7 家庭訪問の原則——
姉妹とその家族をよく知る



表紙
イラスト/ジョシュア・デニス

特集

- 18 「あなたがたはわたしをだれと言うか」キリストについてのペテロの証
テリー・B・ボール
わたしたちはペテロを愛し、理解するようになれば、彼が述べたキリストについての特別な証を受け入れるよりよい備えができ、実際に受け入れることができるでしょう。
- 24 信教の自由——平和の要
D・トッド・クリストファーソン長老
哲学が競い合う世界にあって、わたしたちは宗教の多様性を尊重し信教の自由を守ること、平和の追求において一致することができます。
- 30 聖徒たち——末日におけるイエス・キリスト教会の物語
スティーブン・E・スノー長老
新しい教会歴史シリーズについて学びましょう。

32 聖徒たち——教会の物語
第1章：信仰をもって願い求める
普通ではない状況がスミス家をパルマイラへと向かわせました。確信を持ってなかったジョセフは祈ることを決心しました。

シリーズ

- 8 2017年10月の大会ノート
- 11 教会での奉仕——
解任は終わりではなく、始まりです
リチャード・M・ロムニー
- 12 救い主の方法で教える——
さらに救い主のように教えるにはどうすればよいでしょうか
タッド・R・カリスター
- 16 壇上から——
神がわたしに明らかにしてくださった
レイチェル・H・リーサム
- 38 信仰の肖像——
フェインガ・ファングナ
- 40 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——
福音はあらゆる真理を包含します
ディーター・F・ワークトドルフ管長



44

44 「主はわたしたちを救ってください」

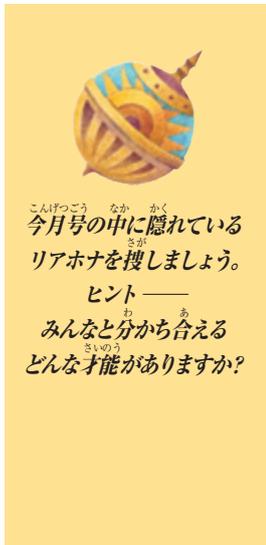
リード・建岡

日本での破壊的な地震の後、宣教師たちは主の守りを、そして彼らを安全に導いてくださった御手を感じたのでした。

48 家族への伝道

アンドレア・ゴメス・ラグネス

手術の後、伝道が終わってしまうと思っていたわたしは、とどまることを許されました。それがなぜなのか、理由を見つける必要がありました。



今月号の中に隠れているリアホナを捜しましょう。

ヒント——

みんなと分かち合える
どんな才能がありますか？

50 イエス・キリスト——わたしたちの平安の源

M・ラッセル・バラード長老

世は一時的な幸福をもたらしてくれるかもしれませんが、イエス・キリストは永続する平安を与えてくださるのです。

54 この世の平安とキリストにあって得る平安

サラ・ハンソン

どうすればわたしたちは、世の見せかけの平安を見分けることができるでしょうか。

56 心のままで禁止令を敷くことはできません

ブロッサム・ラリーノー

ガーナでは、末日聖徒の教会に行くことは違法でしたが、わたしは自分の証を強める必要があると分かっていました。

58 神との関係をどのように深めるか

マッシモ・デ・フェオ長老

主はわたしたち一人一人に、自ら手を差し伸べておられます。主とさらに強い関係を築くことを、今、決意してください。

60 心配事を神にゆだねる

ニノスカ・ナウラス

友人が深刻なうつ病のために入院したとき、心配でたまりませんでした。助けるために何ができるのでしょうか。

62 ポスター——永遠の命

63 教えに教え——1ニーファイ3:7

64 質疑応答

わたしの友達に、ほかの人々について思いやりのないことや不適切なことを言わないように頼みたいのですが、どうしたらよいのでしょうか。



56



74

66 教会のためにかたく立つ

トレーシー・カーターとマリッサ・デニス
イーストンと、かれの新しい友達の
ジャンマルコは、教会のことをクラス
で教えたいと思いました。

68 光をかがやかせる——
賜物を分かち合う

マリッサ・ウィティソン

70 幸福の計画

このぬり絵が、天のお父様の計画を
学ぶのを助けてくれます。

72 キリストについてあかしする使徒

ダリン・H・オクス長老

73 努力し続ける

ピーター・F・マーズ長老

こわくても、才能を分かち合うと周りの
の人を幸せにすることができます。

74 大会カード

75 わたしたちのページ

76 聖文の物語——アダムとエバ

キム・ウェブ・リード

79 色をぬりましょう

大管長会: トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、ティーター・F・ウーグトル

十二使徒定員会: ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オクス、M・ラッセル、バラード、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン、ロナルド・A・ラスバンド、ゲーリー・E・スティープソン、テール・G・レンランド

編集長: ヒューゴ・E・マルティネス

編集長補佐: ランドール・K・ベネット、キャロル・F・マッコンキー

顧問: フライアン・K・アシュトン、ボニー・H・コードン、リグランド・R・カーティス、ジュニア、エドワード・デュベ、シャロン・ユバンク、ドナルド・L・ホールストロム、ダグラス・D・ホームズ、エリック・W・コピシュカ

実務運営ディレクター: リチャード・I・ヒートン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー: ガーフ・キャンソ

編集主幹: アダム・C・オルソン

編集主幹補佐: ライアン・カー

出版補佐: クレミルダ・アマラル

執筆・編集: マリッサ・デニス、デビッド・ディクソン、デビッド・A・エドワーズ、マシュー・D・フリット、ローリー・フラン、ギャレット・H・ガープ、ラリー・ポーター、ガートン、ジョン・ライアン、ジェンセン、シャロット・ラーカバル、マイケル・R・モリス、エリック・B・マードック、サリー・ジョンソン、オデカーク、ジョシュア・J・パーキー、ジャン・ピンボロー、リチャード・M・ロムニー、ミンディー・アン・セル、マリッサ・ウィティン

編集インターン: フェイス・スザリン、ブラックハースト

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ピーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース、フェイ・P・アンドラス、マンディー・ベントレー、C・キンボール・ボット、トーマス・チャイルド、デビッド・グリーン、コリン・ヒンクレー、エリック・P・ジョンソン、スーザン・ロフグレン、スコット・M・ムーイ、エミリー・チエコ・レミントン、マーク・W・ロビンソン、ブラッド・テアー、K・ニコール・ウォーケンホースト

デザインインターン: ケイティ・ブレディー

版権および許諾コーディネーター: コレット・ネベカー・オーヌ

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

制作: アイラ・グレン・アデア、ジュリー・パーデット、トーマス・G・クロニン、ブライアン・W・ギューギ、ギニー・J・ニルソン、デレク・リチャードソン

製版: ジョシュア・デニス

印刷ディレクター: スティープン・T・ルイス

配送ディレクター: トロイ・R・バーカー

日本語版翻訳課長: 大森陽子

郵便宛先: Liahona, Fl. 23, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0023, USA.

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号 / 00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小若5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話: 03-3440-2351

価格
(2016年1月号)
年間購読: 国内 1,250円(送料込み)
海外 1,250円(+送料実費)
海外在住の方は近隣のデストリビューションセンターへのお申込みをお勧めします。
普通号/大会号 130円

【リアホナ】(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語、アルメニア語、ヒスラマ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブアノ語、中国語、中国語(簡体字)、クワアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、アイスランド語、インドネシア語、イタリア語、日本語、キルギス語、韓国語、ラトビア語、リトニア語、マダガスカル語、マレーシア語、モンゴル語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スペイン語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2018 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 韓国
著作権情報: 制限の記載がない限り、「リアホナ」に掲載されているものは、個人的に、また非営利目的(教会の召しも含む)で使用する場合に複製することができます。この指示内容は変更の可能性が常にあります。複製資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Fl. 13, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

February 2018 Vol. 42 No. 2. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.lds.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 507.1.5.2). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazine, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

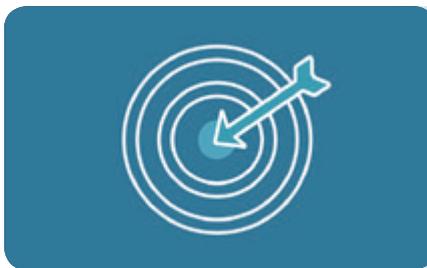
インターネットで得られる追加情報



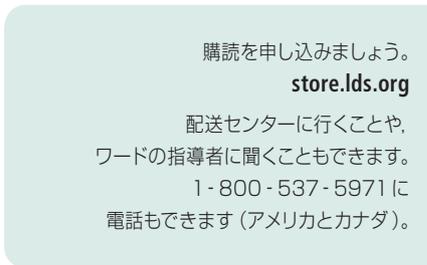
以下で記事を読みましょう。
記事を投稿することもできます。
liahona.lds.org



心を鼓舞し、共有できるメッセージを
以下で見つけましょう。
(英語、ポルトガル語、スペイン語)
facebook.com/liahona



ご意見・ご提案は
以下までお寄せください。
liahona@ldschurch.org



購読を申し込みましょう。
store.lds.org

配送センターに行くことや、
ワードの指導者に聞くこともできます。
1-800-537-5971に
電話もできます(アメリカとカナダ)。

PHOTO: GETTY IMAGES

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- アダムとエバ, 76
- イエス・キリスト, 4, 12, 18, 50, 54, 58, 62, 70, 72
- うつ病, 54, 60
- 教え, 12
- 家族, 10, 48, 75
- 家族歴史, 43, 48
- 逆境, 44, 48, 54, 56, 60
- 教会の召し, 11, 12, 58
- 教会歴史, 30, 32
- 悔い改め, 4, 50
- 言語, 64
- 謙遜, 12
- 才能, 38, 68, 73
- 慈愛, 7
- 従順, 16, 63, 79
- 祝福師の祝福, 38
- ジョセフ・スミス, 32
- 信教の自由, 24
- 真実, 80
- 神殿, 75
- 救いの計画, 70

- 聖餐, 4, 58
- 聖文研究, 43
- 総大会, 74
- 伝道活動, 44, 48, 56, 66
- 天の御父, 58, 62, 70
- バプテスマ, 75
- 平安, 24, 50, 54, 60
- 奉仕, 7, 11, 42, 68
- ホームティーチング, 40
- モルモン書, 75
- 友情, 7, 41, 60, 64, 66



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・
アイリング管長

いつも 御子を覚える

わたしと一緒に、想像してみてください。預言者モロナイがモルモン書の最後の言葉を金版に刻んでいます。彼は独りです。自分の国が崩壊し、民と家族が減びるのを目にしました。地は戦争の「絶えない有様」でした（モルモン8：8）。しかし、彼には希望がありました。わたしたちの時代を目にしていたからです。そして、あらゆる事柄の中から、わたしたちに覚えておくように勧めることを選んだのです（モロナイ10：3参照）。

スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985年）はよく、辞書にある最も重要な言葉は「覚える」という言葉かもしれない、と教えました。神と聖約を交わしたわたしたちにとって、「何よりも必要なのは（それらの聖約を）覚えている」ことなのです。¹

「覚える」という言葉は聖文の至る所に出きます。ニーファイが兄たちをたしなめるとき、彼らに主の御言葉^{みことば}を思い起こし、神が先祖を救ってくださったことを覚えておくようにと何度も勧めました（1ニーファイ15：11、25：17：40参照）。

ベニヤミン王は、その偉大な別れの説教の中で「覚える」という言葉を7回使っています。王はその民が「神の偉大さ」と彼らに対する「神の慈しみと寛容」を覚え、記憶にとどめておくようにと望んだのです（モーサヤ4：11；以下も参照-2：41；4：28、30；5：11 - 12）。

救い主が聖餐^{せいさん}を確立されたとき、御自身の犠牲を記念して〔訳注——英文では「覚えている」を意味する in remembrance〕それを受けるよう、弟子たちを招きました（ルカ22：19）。わたしや皆さんが毎週耳にする聖餐の祈りでは、「覚える」という言葉の前に「いつも」という言葉が来ます（教義と聖約20：77、79参照）。

わたしのメッセージは、覚えるようにという勧め、いえ、嘆願です。毎週聖餐の聖なる象徴を受けるときに覚えるべき事柄を3つ提案しましょう。わたしには役に立った事柄で

すが、皆さんにとっても有益であるよう願っています。

イエス・キリストを覚える

まず、救い主を覚えましょう。主が地上においてどのような御方であったか、どのようにして人々に語りかけ、思いやりを示されたかを心に留めましょう。主がだれと時を過ごし、何を教えられたかを思い起こしてください。救い主は「よい働きをしながら……巡回^{みこころ}されました」（使徒10：38）。病人を見舞い、御父の御心^{みこころ}を行うことに全力を尽されたのです。

何よりも、わたしたちを愛するがゆえに、罪の汚れを取り除くために払ってくださった大いなる犠牲を覚えることができます。主を覚えるとき、わたしたちはよりいっそう主の御心に従いたいと願うようになります。もう少し優しく、寛容になり、神の御心をさらに進んで求め、それを行いたいと望むようになるのです。

自分の改善すべき点を覚える

救い主について思いをはせるとき、主の清さと完全さに比べて、自分がどれほど欠点だらけで不完全であるかを考えずにはられません。わたしたちは、主の戒めに従うと聖約していながら、その高い標準に達していないことがよくあります。しかし、救い主はそうなることを御存じでした。だからこそ、聖餐の儀式を与えてくださったのです。

聖餐の起源は、動物を犠牲としてささげて罪を告白する旧約聖書時代の習わしです（レビ5：5参照）。もう動物を犠牲としてささげることはありませんが、罪をやめることができます。聖文ではそれを、「打ち砕かれた心と悔いる霊」の犠牲と呼んでいます（3ニーファイ9：20）。悔いる心で聖餐に臨みましょう（教義と聖約^{ゆる}59：12；モロナイ6：2参照）。そうすれば、罪の赦しを得ることができ、神のもとへ戻る道からそれることはありません。



自分の進歩を覚える

聖餐の儀式の間に自分の生活を省みるとき、自分の犯した過ちばかりに集中しないようにしてください。正しいことをしたときのこと——天の御父と救い主が喜んでおられると感じたときのこと——も思い出しましょう。聖餐の間に少しの時間を取り、このような事柄を思い起こせるよう神に助けを願うこともできます。そうすれば、きっと何かを感じるとお約束します。

希望を感じることでしょう。

わたしはこれを実行したとき、自分はまだまだ完全にはほど遠いけれども、今日の自分は昨日よりもよくなっていると御霊が確信させてくださるのを感じました。そのことから、救い主のおかげで明日はさらによい自分になれる、という自信を得られました。

「いつも」という言葉は長い時間、集中して繰り返し努力するという意味を含んでいます。皆さんも、常に一つ

のことを意識して考えることがどれほど大変か、経験から知っているはずですが。しかし、皆さんがいつも主を覚えるという約束をどれほどよく守っているかにかかわらず、主はいつも皆さんのことを覚えておられます。

救い主は皆さんの抱えるチャレンジを御存じです。人生の苦労をその身に負うことが、どのようなものを御存じです。皆さんが、いつも主を覚え、従うことからたらされる祝福、すなわち「いつも御子の御霊を受けられるように」となるという祝福をどれほど切に必要としているかを御存じです（教義と聖約 20 : 77 ; 強調付加）。

そのため主は、皆さんが毎週聖餐の食卓に戻るのを歓迎し、再び主の前で、主をいつも覚えると証明する機会を与えてくださっているのです。■

注

1. Spencer W. Kimball, "Circles of Exaltation" (address to Church Educational System religious educators, June 28, 1968), 5

このメッセージから教える

生活が忙しく、救い主イエス・キリストをいつも覚えるのが難しいこともあります。しかし聖餐は、毎週主の生涯と教えについて深く考える特別な時間を与えてくれます。ホームティーチング先の人々と一緒に、聖餐式の静かな時間をどのように過ごすべきか、考えてみましょう。そして、どうしたら救い主にさらなる焦点を当てられるかを話し合ってください。個人的に改善すべき点について深く考えるために、聖餐の時間をどのように生かすことができるでしょうか。毎週自分の進歩について思い起こすことが大切なのはなぜでしょうか。



「主が……どれほど憐れみをかけて
こられたかを思い起こし〔なさい。〕
(モロナイ 10：3)

覚えるべき3つの事柄

モルモン書には、「覚える」という言葉が何度も出てきます。ニーファイは兄たちに、神が先祖を救ってくださったことを覚えておくように勧めました。ベニヤミン王は、民に神の偉大さを覚え、記憶にとどめておくように望みました。そしてモロナイは、自分の記録を読む人々に対して、主がどれほど憐れみ深い御方であるかを覚えておくようにと教えました。

救い主を覚えておくことは絶対に必要なことです。だからこそ、わたしたちは聖餐を受ける度に、主を覚えることを聖約するのです。アイリング管長は、聖餐式の間、次の3つの事柄を覚えるように勧めています。

1. **イエス・キリストを覚える**：救い主が人々に仕え、愛を示される様子が記された聖句を読みましょう。主の愛について、どのように感じていますか。どうすれば、主がなさったように人々に仕え、愛を示すことができるでしょうか。
2. **自分の改善すべき点を覚える**：悔い改めの気持ちで、前の1週間を振り返りましょう。自分が変えられる点の一つを選び、どのように改善するかを書き出してください。よく目に留まる場所にその目標を貼っておきましょう。

3. **自分の進歩を覚える**：自分の進歩に気づけるよう、天の御父に助けを求めましょう。感じたことを記録してください。

わたしたちは完全ではありませんが、救い主はそれを御存じです。だからこそ、主はわたしたちに御自身を覚えるようにと望んでおられるのです。主を覚えることで、わたしたちは希望を持つことができ、進歩したいと願うようになります。わたしたちが主を覚えるのを忘れてしまう時があっても、「主はいつも皆さんのことを覚えておられます」とアイリング管長は言います。

子供

イエスを覚える

聖文はわたしたちに、いつもイエス・キリストを覚えなければならぬと教えています。それは、イエスについてたくさん考えて、イエスのものはんにしたかうということです。

いつもイエスを覚えることができるように、このイエスの絵を紙に写して、色をぬりましょう。よく目につくところにはってください。

「そして、
あなたがたは、
いつもわたしを
覚えているならば、
わたしのみたまを
受けるであろう。」
(3 ニーファイ
18：7)



姉妹と その家族を よく知る

家庭訪問とは、姉妹たちの信仰を強める助けをし、仕えることができるように、姉妹一人一人を心から知り、愛するようになることです。



信仰、家族、扶助

リタ・ジェプソンと彼女の訪問教師は、会って福音について話すことで仲良くなりました。訪問中に単語ゲームもします。ゲームをすることは、年老いてきたリタの気持ちを元気にしてくれます。訪問教師はリタに何が必要で何を楽しんでいるかを知っているので、お互いに訪問を楽しみにしているのです。訪問時にできることはいろいろあります。一緒に散歩したり、家事などを手伝ったりすることもできます。

1842年、預言者ジョセフ・スミスの母親であるルーシー・マック・スミスは、新たに設立された扶助協会で末日聖徒の姉妹たちが互いをどのように思うべきかについて、彼女の気持ちをこう表現しました。「わたしたちは慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなけ

ればなりません。」¹

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように述べています。「自分自身を主がその子供たちに遣わされる使者だと考えてください。……会員に対して、福音に真に根差した真心からの関心を向け、一人一人を見守り、気にかけて、助けの手を差し伸べて霊的・物質的な必要を満たしてほしいのです。」²

主はモーセを通してイスラエルの民にこう命じられました。「あなたがたと共にいる寄留の他国人を、あなたがたと同じ国に生れた者のようにし、あなた自身のように〔彼女〕を愛さなければならない。」(レビ19:34) 訪問し始めのころ、家庭訪問先の姉妹たちは「他国人」のようかもしれませんが、姉妹とその家族を知るようになるにつれ、「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合

い] ……互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持ち」といふ願う気持ちが強まるでしょう(モーサヤ18:8, 21)。

注

1. ルーシー・マック・スミスの言葉、「わたしの王国の娘」25ページ
2. ジェフリー・R・ホランド「教会の使者」『リアホナ』2016年11月号、62



考えてみましょう

訪問先の
姉妹の家族に関して、
近々の予定の中で
知っておくべきことは
何でしょうか。

仕え、教え、導く

このページでは、ある決まった言葉を提供するのではなく、より効果的に互いに仕え、教え、導く助けとするために、毎月異なる原則に焦点を当てます。
祈り、靈感を求めるなら、訪問先の姉妹が必要としている霊的なメッセージや奉仕を知ることができるでしょう。

2017年10月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ[る。]……わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:38)

2017年10月の総大会を振り返る際に、このページ(過去および今後の大会ノートの記事)を使って、生ける預言者、使徒、そのほかの教会指導者が語った最近の教えを研究し、生活に取り入れるとよいでしょう。



教義的な重要点

神権の誓詞と聖約

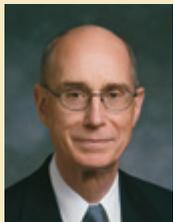
「**×**メルキゼデク神権者は、アロン神権に関連するすべての責任を果たし、メルキゼデク神権の召しを尊んで、大いなるものとするを聖約します。……

これに対し、神はメルキゼデク神権者が神の奥義を理解する鍵かぎを受けることを約束されます。メルキゼデク神権者は完全になり、神の御前に立つことができます。救いの業わざにあって、

自らの役割を果たすことができます。イエス・キリストは神権者の前に道を備え、神権者とともにいてくださいます。聖霊は神権者の心の中にあり、天使は神権者を支えます。神権者の肉体は強められ、更新されます。神権者は、アブラハムの祝福を受け継ぎ、妻と並んで、またイエス・キリストとともに天の御父の王国の共同の相続人となります。これらは『尊く、大いなる

約束』です。〔2ペテロ1:4〕これほど大いなる約束は想像することもできません。』

十二使徒定員会
デール・G・レンランド長老
「神権と救い主の贖いの力」
『リアホナ』2017年11月号、65 - 66



信仰は恐れに打ち勝つ

「すでに信仰と勇気を心に築いていたとしても、主はさらに多くを、わたしたちにも、わたしたちの後の世代の人々

にも、求められるのです。後の世代の人々は、わたしたちが行ってきたよりもさらに偉大で困難な業を行うこととなるために、さらに強く雄々しくなる必要があるのでしょうか。そして、さらに強まる霊の敵からの反対勢力にも、立ち向かうこととなります。……

主の用向きを受けるときにはいつでも、主が皆さんに先立って行かれることを証します。時には、人を支える主の天使として皆さんが遣わされることも、逆に、皆さんが天使に囲まれ、支えられることもあります。どちらにせよ、聖餐式で毎回受ける約束のとおり、皆さんの心には常に主の御霊があるでしょう。皆さんはただ、主の戒めを守ればよいのです。

地上における神の王国にとって最良の日々がもうじき訪れます。預言者ジョセフ・スミス の時代からそうであったように、反対勢力があるとき、イエス・キリストを信じるわたしたちの信仰は強められます。信仰は、常に恐れに打ち勝つものです。皆でともに働くとき、そこには一致が生まれます。困っている人々に向けられた皆さんの祈りは、愛にあふれる神の耳に届き、こたえられます。神はまどろむことも、眠ることもなさらないのです。」

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
「善を行うのを恐れてはならない」
『リアホナ』2017年11月号, 103



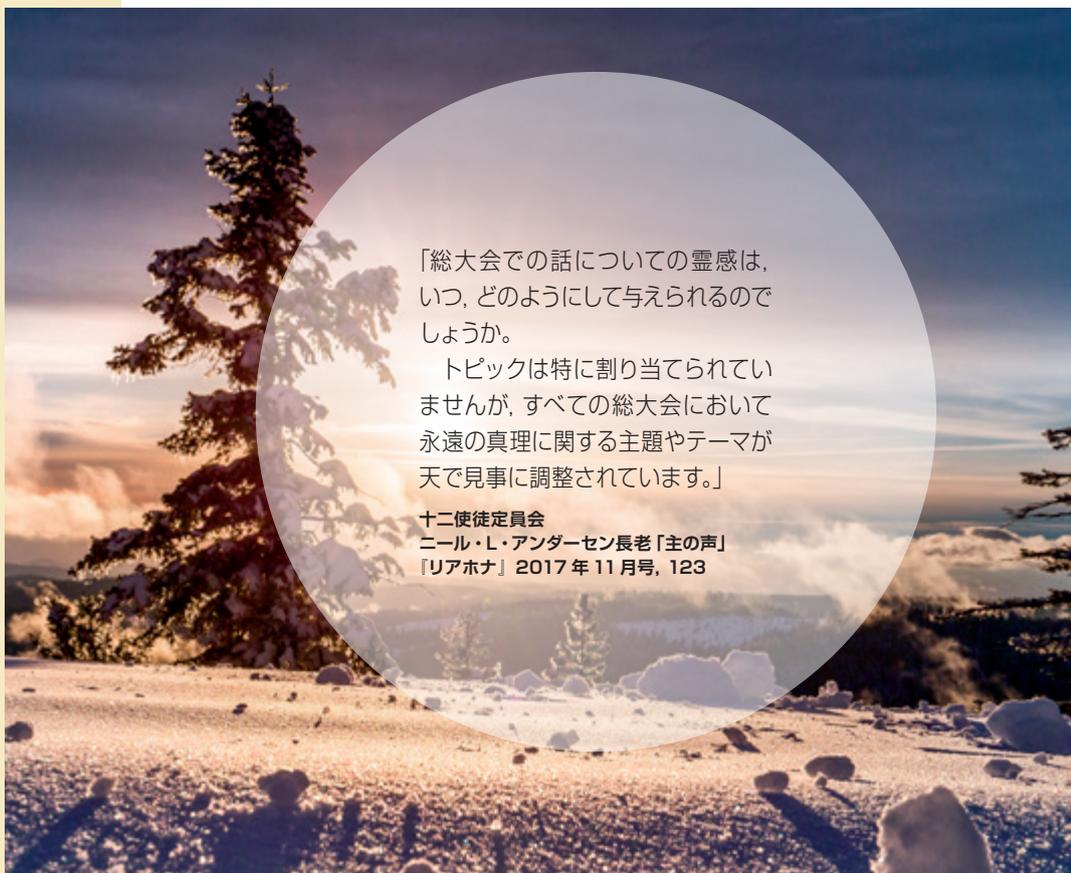
周りの人々に奉仕する

「ほとんどの教会員は、奉仕を自らの聖約と弟子としての生活の中心に位置づけていると思います。しかし、時には人に仕えるすばらしい機会を見逃しがちだとも思います。ほかのことに気を取ら

れたり、世の中を変えるような壮大な奉仕の方法を探したりしているためです。そうして、わたしたちが満たすことのできる、家族や友人、ワードや地元の人々が抱えている重大な必要を見逃してしまうのです。地球の反対側にいる人々が苦しみ、助けを必要としているのを目にして心を痛める一方で、クラスですぐ隣に座る人が友人を必要としていることには、気づかないかもしれません。……

……天の御父は、わたしたちがその人の必要を満たすのに最適だと御存じだからこそ、わたしたちを必要とする人々を、わたしたちのいちばん近くに置かれたのかも知れません。」

中央若い女性会長 ポニー・L・オスカーソン「目の前の必要」
『リアホナ』2017年11月号, 25 - 26



「総大会での話についての靈感は、いつ、どのようにして与えられるのでしょうか。」

トピックは特に割り当てられていませんが、すべての総大会において永遠の真理に関する主題やテーマが天で見事に調整されています。」

十二使徒定員会
ニール・L・アンダーセン長老「主の声」
『リアホナ』2017年11月号, 123



完全——恵みの賜物^{たまもの}

「わたしは〔神が〕完全な御方であることを信じていますし、わたしたちが神の霊の息子娘であって、神のようになる力を秘めていることを知っています。わたしは、神の子供であるわたしたちが、あたかも自分を苦しめることで神の望むような人になれるかのように、自分を卑下したり責めたりするべきではないことも知っています。そうしないでください！ 進んで悔い改め、さらに義にかなった生き方をしたいという望みを常に心に抱きつつ、わたしたちが個人の成長^{かいはう}を追い求めることができるよう願っています。潰瘍ができたり、食欲不振に陥ったり、落ち込んだり、あるいは自尊心を損なったりすることのない方法で成長できますように。……

『まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい』とモロナイは訴えています。『勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば……あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。』（モロナイ 10 : 32, 強調付加）真の完全を目指すわたしたちの唯一の希望は、そうした完全を天からの賜物として受けることです。わたしたちが自分の力で獲得することはできません。このようにキリストの恵みにより、わたしたちは悲しみや罪、死から救われるだけでなく、自分自身を責めるという克服し難い性癖からも救われるのです。』

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド長老
「それだから、あなたがたもいずれ完全な者となりなさい」
『リアホナ』2017年11月号, 40, 41 参照



あなたのための答え

どのようにして救い主を生活の中にお招きすればよいでしょうか。

「〔聖餐〕を取るとは、キリストのような人格と一致しないことは何でも自分の生活から取り除き、主の特質を身につけることを意味します。これこそ悔い改めの広義です。過去の罪を捨てるだけでなく、前進しながら『心と思いを神に向ける』のです。』（BibleDictionary, “Repentance” の項）

十二使徒定員会 D・トッド・クリストファーソン長老「天から下ってきた生きたパン」
『リアホナ』2017年11月号, 39



2017年4月のモルモン書のチャレンジ

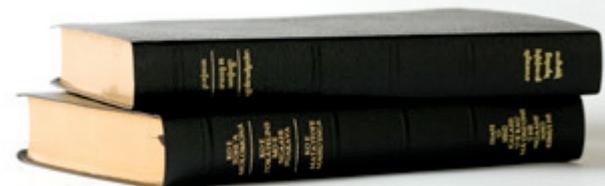
「モルモン大管長から〔モルモン書を研究し、深く考えるようにとの〕チャレンジを受けて以来、わたしはその勧告に従おうと努力してきました。その中の一つとして、モルモン書がどのような書物で、何を確かにし、何に対して異議を唱え、何を成就し、何を分かりやすく説明し、何を明らかにしているかを簡条書きにしてみました。このような観点でモルモン書を見ることは、洞察と靈感を得る訓練となります。これを、皆さん一人一人にもお勧めします。〔ネルソン会長が編さんしたリストについては、ネルソン会長の説教の末尾を参照してください。〕……

〔これらの質問についてよく考えてみましょう：〕第1に、モルモン書がなかったとしたら、どんな人生でしょう。第2に、モルモン書なしに知り得なかったであろうことは何でしょう。第3に、モルモン書なしに得られなかったであろうものは何でしょう。……

トーマス・S・モンソン大管長が今日の地上における神の預言者であることを、わたしは知っています。わたしは彼を愛し、心から支持しています。」

トーマス・S・モンソン大管長が今日の地上における神の預言者であることを、わたしは知っています。わたしは彼を愛し、心から支持しています。」

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン会長「モルモン書——この書物なしの人生とは」
『リアホナ』2017年11月号, 61, 63



解任は終わりではなく、 始まりです

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

教会では、昇進することも降格することはありません。ともに前へ進むのです。

最近、友人がワードのビショップを解任されました。その数日後、わたしもビショップとして奉仕した経験があることを知っているその友人から、話がしたいと言われました。

「このような気持ちになるのは普通なんだろうか」と彼は聞いてきました。

「どんな気持ちなんだい。」

「切り離されてしまった感じかな。たくさんの人の人生にかかわってきたのに、それが突然終わってしまった。人とのつながりをあれほど感じるのが今後あるのだろうか。」

彼に問われて、自分が解任されたときのことを思い返しました。そして、同じように感じたことを思い出しました。人々が救い主と天の御父にさらに近づく手助けをする、そこに深くかかわっていたことをとても懐かしく感じました。聖霊の靈感を求めて従うよう、励ませないのは寂しいものです。ビショップとして奉仕することはすばらしい祝福でしたが、もうなくなってしまったのです。

でも、ほんとうにそうなのでしょう。しばらくして、仕えるという祝福は消えることがないのだと気がつきました。機会は常にあるのです。イエス・キリストの弟子として、わたしたちはいつも主を覚えるべきではないで

しょうか（教義と聖約 20：77, 79 参照）。人々が救い主と天の御父に近く手助けを、いつもするべきなのではないでしょうか。自分以外の人たち、特に伴侶や家族が、聖霊の靈感を求め、それに従うことをいつも手助けするべきではないでしょうか。

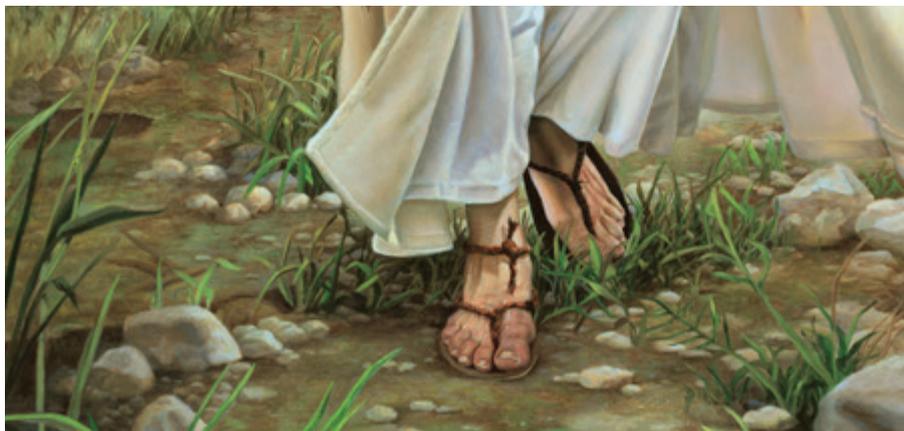
十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の言葉を思い出しました。「わたしたちは解任される時に『降格』するのではなく、召されるときに『昇進』するわけではありません。主の奉仕の業において『上、下』はないのです。『前に出るか、後ろに下がるか』だけなのです。その違いは、解任と召しをどのように受け入れ、どのようにそれに従って行動するかで決まります。わたしはかつて、9年間立派な奉

仕をしてきた、ある若いステーク会長の解任を担当しました。彼は、自分の解任と、妻とともに受けたばかりの新しい召しを喜んでいました。二人はワードで託児指導者になる召しを受けたのです。それを等しく誉れあることと見るのは、この教会だけでしょう。」¹

友人と話しているうちに、わたしたちは二人とも、どのような召しであっても、その召しを解任されたときに奉仕が終わるのではないことに気がつきました。キリストに従う者にとって、奉仕に終わりはありません。新たな召しを受け、また仕え始めて、皆でともに前へ進むのです。■

注

1.ダリン・H・オークス「神権の鍵と権能」『リアホナ』2014年5月号、49参照





中央日曜学校会長
タッド・R・
カリスター

さらに救い主のように教えるには どうすればよいでしょうか

カナダ、トロントの伝道部会長として奉仕していたときに、わたしの補佐の一人がやって来てこのように言いました。「会長、どうすればもっとよい宣教師になれますか。」わたしはまず「君はとてもよくやっているよ」と答えました。実際、そうでした。しかし、彼がどうしてもその質問の答えを知りたがったので、わたしは少し考えてからある提案をしました。彼は笑顔で、前向きに応じました。

わたしはこのささやかな経験をほかの宣教師に話しました。程なく、ほかの長老や姉妹も面接でこのように尋ねるようになりました。「会長、どうすればもっとよい宣教師になれますか。」一人の宣教師の質問が、伝道部全体に向上心をもたらしたのです。

同様に、教師が次の簡潔な質問を、主と自分の指導者に心から尋ねるならば、建設的な勧告を受けるでしょう。「さらに救い主のような方法で教えるにはどうすればよいでしょうか。」主は約束されました。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約 112:10)

情熱をかける

英国の小説家 J・B・プリーストリーはかつて、どうやってそれほど有名な作家になったのかと尋ねられました。同じくらい才気あふれた人たちがだれ一人彼ほど成功を取めることがなかったからです。プリーストリーの答えは次のようなものでした。「わたしたちの間の違いはというと、能力にあるのではなく、彼らには……〔書く〕ことへの情熱がそれほどなかったということです。』¹

教師であるわたしたちは、「現在の教授能力に満足しているだろうか。」「さらに救い主のように教えることに情熱をかけているだろうか」と問うことがあるでしょう。もしそうであれば、わたしたちは進んであらゆる高慢をわきに置いて、指示をただ待つだけではなく、積極的に求めているでしょうか。

謙遜が鍵となる

この教会には優秀な教師が大勢いますが、ほんとうのところは、経験や、学位、クラスの生徒に愛される度合いにかかわらず、謙遜でありさえすれば、だれでも向上し、「偉大な教師」のようになることができます。恐らく、キリストのような教師の顕著な特質は、素直

だということでしょう。謙遜さは、御^み霊^{たま}を招き、向上心を育む特質です。

あるとき、わたしは日曜学校の会長たちと会合を持ちました。皆落胆していました。ワードや支部に、これ以上指示を受ける必要はない、あるいはもう教師評議会に出席する必要はないと思っている教師が一人ならずいるからです。自分のことを経験豊富ないしは熟練した教師だと思っているのです。

これを聞いてわたしも残念に思いました。なぜなら、何らかの改善をする余地のない教師に出会ったことは一度もないからです。

最も経験豊かな教師でさえ、謙遜な心と学びたいという熱意をもって教師評議会集会に参加するなら向上する方法について、神聖な洞察と印象を必ず受けます。わたしは何度も教師評議会集会に参加してきましたが、その度に、新たな洞察を得るか、教授技術や特質を改善したいという願いを胸に集会を後にします。さらに磨きをかけて熟達しなければならぬ技術や特質に気づくのです。

教える技術を高める必要性

時折、教える技術やテクニックは、単に機械的なもの、または宗教と関係が

柱に芸術的な手を加えようと試みましたが、無駄に終わりました。大理石の欠陥があまりにも多かったのです。²とうとう、二人とも諦めました。ミケランジェロにも同じ欠陥が見えていました。ただ、彼はその向こうにあるものも見ていました。生き生きした、息づくような、立派なダビデの姿を見ていたのです。今日、その像を見る人は、一目で畏敬の念を抱いて息をのむのです。

同じように、神は、その完全な福音が「弱者や純朴な者によって世界の果てまで、また王や統治者の前に宣べられる」と宣言されました(教義と聖約 1:23)。神はわたしたちの欠点や短所を御存じですが、その向こうにある姿も御覧になります。神は、わたしたちが弱さを克服するのを助ける能力だけでなく、弱さを強さに変える能力もお持ちです(エテル 12:26-27 参照)。神は、わたしたちの教える技術と特質

を精錬し、完全にさせ、わたしたちがさらに救い主のように教えられるように助けることがおできになります。

さらに救い主のように教える方法

以下は、さらに救い主のように教えるためにわたしたち皆が行おうと努力していることの根幹を成すものの一例です。

- 御霊によって教える レッスンに活力と息吹^{いぶき}と価値を与えてくれるのは御霊であることを理解する(教義と聖約 43:15 参照)。
- 教義に焦点を当てる 聖文で教えられている教義と生ける預言者の教える教義には、生活を変える力が備わっていることを認識する(アルマ 31:5 参照)。
- 熱心な学び手となる 理想的な教師は、理想的な学び手でもあ

ることを理解する(教義と聖約 88:118 参照)。

- 啓示を求める 教える召しとともに召しを尊んで大いなるものとするために啓示を受ける権利を必ず授かることを理解する。その人の召しを尊んで大いなるものとするため(教義と聖約 42:61 参照)。
- 愛を示す クラスの一人一人の名前を覚え、一人一人のために祈り、それぞれの人(特に、特別な助けを必要としている人)に関心を払い、出席しない人に有意義な方法で手を差し伸べる(モロナイ 7:47-48 参照)。

自己評価

使徒パウロはこのように勧告しています。「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省……するがよい。」(2 コリント 13:5) 教師はこれを次のように読み替えることができるでしょう。「あなたがたは、救い主の方法で教えているか、自分の方法で教えているか、自分を反省するがよい。」年の初めは、そのような自己評価を行うのにちょうど良い時期です。そこで、この記事にある自己評価の質問に答えるようお勧めします。そうするとき、御霊は、あなたがさらにキリストに似た教師になるために何に焦点を当てればよいか、またそのために必要な特質と技術を会得し育むためにはどうすればよいか分かるよう助けてくださるでしょう。■

注

1. J.B. Priestley, *Rain Upon Godshill* (1939), 176
2. "Michelangelo's David," accademia.org/explore-museum/artworks/michelangelos-david 参照



キリストのような教師となるために：

自己評価

以下に挙げた、効果的に教えるための原則についてよく考えてください。改善できると思う分野に関して、何を行うよう促しを感じるか空欄に書きましょう。

| | |
|---|--|
| 1. 学び、積極的に参加したいという謙遜な望み ^{けんそん} を抱いて教師評議会集会に参加します（教義と聖約 112：10 参照）。 | |
| 2. 学び手としても教師としても助けてくださる御霊 ^{みたま} から受けた印象を普段から記録しています（教義と聖約 76：28 参照）。 | |
| 3. レッソンの準備は、遅くとも1週間前には始めます（教義と聖約 88：118 – 119 参照）。 | |
| 4. 教えずぎたり、話し合いに任せすぎたりせずに、教師の話とクラスの話し合いのバランスを適切に保っています（教義と聖約 88：122 参照）。 | |
| 5. 神の手に使われる者となれるよう、御霊を熱烈に祈り求めます（教義と聖約 42：14 参照）。 | |
| 6. さらに啓示を受けられるよう、レッスン資料や外部資料を読む前に、時間を取って聖句ブロックについて深く考えます（教義と聖約 42：61 参照）。 | |
| 7. クラスの生徒、特に青少年が、福音を学ぶだけでなく、より有能な教師になれるよう助けます。彼らが将来よりよい宣教師、指導者、教師、親になれるようにするためです（教義と聖約 88：77 参照）。 | |
| 8. クラスの生徒一人一人の名前を挙げて祈ります（ルカ 22：32 参照）。 | |
| 9. クラスに出席しない人たちに手を差し伸べます（ルカ 15：1 – 7 参照）。 | |
| 10. キリストのような教師になるうえで最も大きな課題は何でしょうか。また、どのようにその課題を克服できるでしょうか。 | |

さらに掘り下げた評価をするには、『救い主の方法で教える』37ページの自己評価を参照してください。

神がわたしに 明らかにしてくださった

レイチェル・H・リーサム

この新しいシリーズでは、『壇上から——末日聖徒の女性による説教の185年』(At the Pulpit: 185 Years of Discourses by Latter-day Saint Women) という書籍から抜粋した、献身的な女性の生涯とメッセージを特集します。この書籍の何章かは、churchhistorianspress.org/at-the-pulpit [英語] で読むことができます。

わたしは世界中でいちばん幸せな女性の一人だと思っています。そう思えるのは福音のおかげです。福音が真実であることを知っているからです。父なる神とその御子イエス・キリストが地上に降り立ち、福音をもたらして確立し、預言者ジョセフ・スミスに語りかけられたことを、わたしは確かに知っています。……

わたしは永遠に生きられたとしても、人生で受けてきた祝福について天の御父に感謝し尽くすことはできないと思います。世に出て行って、福音が回復されたこと、キリストの権能が神の僕たちに与えられたこと、真理と命と救いの言葉に耳を傾けて従う人々に用意されている祝福について告げ、この証を述べる特権についても、感謝し尽くすことができません。……

家にいるわたしたち若者は自分に課せられた責任を十分に理解していないのではないかと、わたしは時々思います。先に立って導いてくれる人たちが高齢であること、父と母がいなくなったら自分たちが彼らの仕事を担うことになり、シオンの将来の責任を担う者になるのだということを、時々忘れていています。わたしたちは自分のなす



リーサム姉妹について

レイチェル・ハンナ・リーサム姉妹(1884—1979年)は、教会の公式の大会報告に説教が収録された二人目の女性となりました。

1908年4月5日に総大会の野外予備会場で話をしています。

教会の伝道宣教師として奉仕した独身女性の第一世代で、1906年9月、22歳のときに、コロラド州の伝道部で奉仕する割り当てを受けました。

1908年にソルトレーク・シティーに帰還すると、templスクウェアの案内所でガイドとしてボランティアで働きました。この案内所は、templスクウェアを訪れた人に正確な情報を提供し、教会の刊行物を配布する目的で1902年に開設されたものです。

この時代には、総大会はtemplスクウェア内のタバナクルで開催されていました。タバナクルが満席になると、出席者は近くのアッセンブリーホールに設けられた予備の会場に案内されました。アッセンブリーホールが満席になると、人々は案内所の建物近辺の芝生に集まり、そこが予備会場となって総大会の別集會が行われたのです。

これは、1908年4月5日にリーサム姉妹が総大会の予備会場での集會で語った話の抜粋です。英文では、句読点と大文字は標準用法に合わせています。

べきことを行っているのでしょうか。親たちが行ってきた業を行えるように備えているのでしょうか。

……戒めを守るならば与えると神が約束してくださった事柄を述べることができるのでしょうか。この大陸の古代の住民の記録であるモルモン書に親しんでいるのでしょうか。この書物が教える偉大な真理を熟知し、自分が現在取り組んでいる業のすばらしさを教えてくれる各書に精通しているのでしょうか。わたしたちは福音の原則をよく理解しておらず、熱心さが足りないのではないかと、わたしは心配しています。¹

多く与えられた者からは多く求められます。そして、自分がいかに多く与えられており、いかに多くのことが求められているか、皆さんは知っています〔ルカ12:48; 教義と聖約82:3 参照〕。求められることを果たせるよう備えているのでしょうか。神の口から出る一つ一つの言葉によって生きようではありませんか〔申命8:3; マタイ4:4; 教義と聖約84:44 参照〕。神に御自分のものとされ、祝福され、愛されるような生き方をしようではありませんか。

……わたしは福音が真実であることを知っている、重ねて申し上げたいと思います。福音が真実であることが分かるのは、父がそれを知っていたからでも、母がそれを教えてくれたからでもありません。神がわたしに明らかにしてくださったからです。神の

御^み霊^{たま}がわたしの霊に証してくださいました〔ローマ8:16 参照〕。その証は神から頂いた非常に貴い^{たまたもの}賜物です。

神がわたしたち皆を祝福してくださいよう、イエスの御^{みな}名によって願います。アーメン。■

注

1. リーサム姉妹の熱心さは、伝道部長にあてた毎月の手紙によく表れている。1907年2月25日付けの手紙に彼女はこう書いている。「わたしは義務を果たそうと努め、自分の働きに非常に大きな喜びを感じました。」(Colorado Denver South Mission General Minutes, 166)





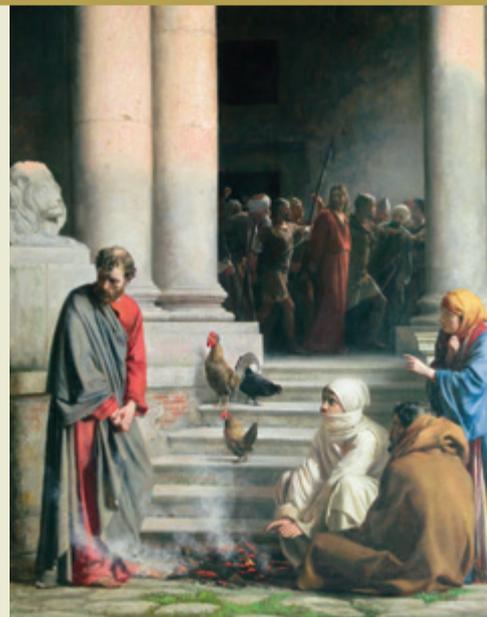
「あなたがたはわたしをだれと言うか」

キリストについての ペテロの証^{あかし}

ブリガム・ヤング大学宗教教育学教授
テリー・B・ポール

使徒ペテロはキリストを信じる人々から愛されています。非常に誠実な親しみやすい人と思われているからです。わたしたちはペテロに共感できます。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」と主から告げられたときに、「すぐに」網を置いてすべてを捨てた彼の勇気を、わたしたちは称賛します(マタイ4:18-20)。たとえの意味とメッセージに戸惑いを覚えたペテロの気持ちを、わたしたちは理解できます(マタイ15:15-16参照)。夜のガリラヤの海で、その足と信仰が荒れ狂う水の上で揺らぎ、「主よ、お助けください」と叫んだペテロの絶望感を、わたしたちは感じます(マタイ14:22-33)。変貌の出来事で彼が示した畏敬の念を、わたしたちは称賛します(マタイ17:1-13参照)。わたしたちは、3度否認した恥を彼とともに嘆き(マタイ26:69-75参照)、ゲツセマネでともに悲しみ(マタイ26:36-46参照)、また空の墓でともに喜びながらも首をかしげます(ヨハネ20:1-20参照)。

恐らく福音書の著者たちは、わたしたちにペテロとの個人的なつながりを持ってほしいと思ったのでしょう。彼らは記録の中に、最初の十二使徒のほかのだれよりも多く、ペテロについて、イエスとの経験と対話を意図的に書き残しているように思われます。¹福音書の中でペテロに非常に多くの注意が払われているのは、ペテロが使徒たちの代弁者となり長となったためであると、多くの人が推測しています。しかし恐らく、マタイ、マルコ、ルカ、それにヨハネまでもがそれほどしばしば個人的にペテロとキリストのかかわりについて述べているのは、わたしたちがペテロを愛し、理解するようになれば、彼が述べたキリストについての特別な証を受け入れるよりよい備えができ、実際に受け入れることができると期待したからなの



わたしたちは
使徒ペテロを愛し、
理解するようになれば、
彼が述べた
キリストについての
特別な証^{あかし}を受け入れる
よりよい備えができ、
実際に受け入れることができ
るでしょう。

でしょう。ペテロはその証を持つように入念に備えられたと思われます。

ペテロの備え

ペテロは、現世での務めを果たされるイエスと行動を共にしました。そのため、主がメシヤであられるというこの使徒の証は、彼に与えられた知的な経験と実際の経験、啓示を受ける経験を通じて得たものと思われます。つまり、今日のわたしたちの証と同様、彼の証は、自らの頭と手と心を通じてもたらされたのです。

ペテロは、ナザレのイエスがただの人ではないことを知っていました。イエスが目の見えない人を見えるようにされ、重い皮膚病にかかった人を清められ、足の不自由な人を歩けるようにされ、死者をよみがえらせられるのを、ペテロは目にしたからです（マタイ 11:4-5 参照。ヨハネ 2:11; 10:25; 20:30-31 も参照）。イエスはキリストであられるというペテロの論理に基づく断言は、主の指示に従うことによって学んだ事柄により力強いものとなりました。ペテロは、救い主の指示にこたえて網をおろし、おびただしい数の魚を取りました（ルカ 5:1-9; ヨハネ 21:5-7 参照）。救い主から「おいでなさい」と告げられたとき、水の上を歩きました（マタイ 14:22-33 参照）。また、わずかなパンと魚を救い主の指示に従って大勢の人々に分け与えたところ、実に彼の手の下でその量が増えるという奇跡が起きたのでした（ヨハネ 6:1-14 参照）。

ペテロの頭と手に与えられたそれらの証は、彼に与えられた最も力強い証、すなわち、彼の心に示された証を大いに補完したことでしょう。イエスが弟子たちに「人々は人の子をだれと言っているか」と尋ねられたとき、彼らは、

その時代の人々が抱いていた共通の思いを繰り返しました。その後、救い主は、質問を個人向けに変えて、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」と尋ねられました（マタイ 16:13-15 参照）。ちゅうちょせず、ペテロは答えました。

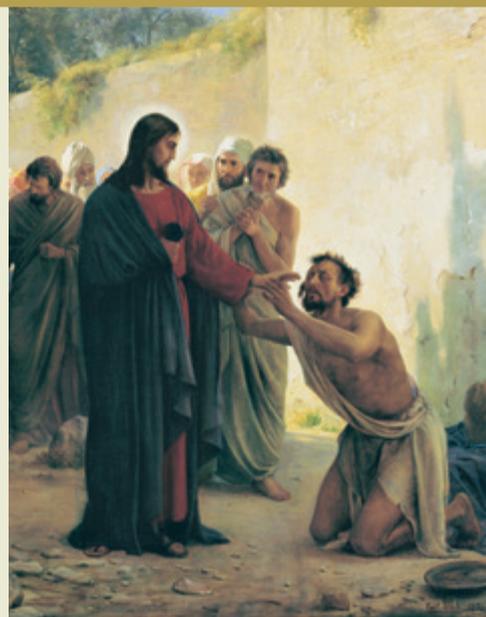
「『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』」

すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。』（マタイ 16:16-17）

キリストの特別な証人となるペテロの備えの一部は、イエスと多少個人的とも言える経験を何度か重ねたことでした。² ペテロが救い主に質問したときや、ペテロをもっと訓練する必要があるとキリストが思われたとき、しばしばこのように個人向けの助言や指示が与えられました。³

ペテロはまた、恐らくキリストのすべての弟子の中で最も叱責を受けた人です。⁴ 驚くべきことに、ペテロは、腹を立てることなく、主に従い続け、日々証を増し加え、主について学び続けました。⁵

ガラテヤの漁師の備えは、主の十字架刑の後に経験した出来事で頂点に達しました。墓が空であることを聞いたペテロは、それを自ら確かめるために急いで墓に行き、「事の次第を不思議に思いながら」その場を立ち去りました（ルカ 24:1-12。ヨハネ 20:1-9 も参照）。ルカが記録しているように、その同じ日のうちに、復活された救い主はペテロに個人的に御姿を現されました。しかし、わたしたちはその出来事についてほとんど知りません（ルカ 24:34; 1コリント 15:3-7 参照）。よみがえられた主は、その日の夜に、使徒た



ペテロは、
ナザレのイエスが
ただの人ではないことを
知っていました。
イエスが目の見えない人
を見えるようにされ、
重い皮膚病にかかった
人を清められ、
足の不自由な人を歩ける
ようにされ、
死者をよみがえらせられ
るのを、ペテロは目に
したからです。

ちとほかの弟子たちに御姿を現し、御自分の体の傷に手を触れる機会を与えられました。その後、御自分の復活がモーセの律法と聖文に書かれている預言を成就するものであることを彼らが理解できるようにしてから、こう告げられました。「あなたがたは、これらの事の証人である。」(ルカ 24:36 - 48 参照。マルコ 16:14; ヨハネ 20:19 - 23 も参照) 後に 11 人の弟子は、救い主の指示に従ってガリラヤへ行き、「イエスが彼らに行くように命じられた山に」登りました。すると

主は彼らに、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」と断言されました(マタイ 28:7, 10, 16 - 20 参照)。

そのすべてによって、ペテロの頭と手と心は、復活されたキリストの証人になれるようにさらに鍛えられたのでした。その目でよみがえられた主を見、その耳で主の言葉を聞き、その手で主に触れ、そして実にその心で再び御霊の確認を感じたからです。

ペテロの務め

メシヤの贖いの使命を十分に理解するために、ペテロには、時間と教えと経験が必要でした。同様に、キリストの特別な証人としての自分の使命を理解することも、徐々にしかできませんでした。

自分に求められてい

ることを完全に理解できたのは、ガリラヤの海辺で主から教えを受けたときであったと思われます。ペテロは、主の復活体に残されている十字架刑で受けた傷跡に 2 度触れていながら、今なお何を行うべきか迷っていたことは明らかで、こう言っています。「わたしは漁に行くのだ……。」(ヨハネ 21:3) もはやイエスが一緒におられなかったので、ペテロは、以前の暮らしに戻ろうとしていたようです。兄弟たちもついて行きました。

彼らは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。すっかり疲れ果て、がっかりして岸に近づくと、そこに立っている人が目に入りました。それがだれだか分かりませんでした。その人から、もう一度網を入れるようにと言われました。恐らく、同様の助言に従って大漁であった過去の出来事を思い出したのでしょうか。このときは、言い返したり疑ったりすることなく、その言葉に従いました(ルカ 5:1 - 9; ヨハネ 21:3 - 6 参照)。彼らが網を引き上げると、この度も大漁でした。そこでヨハネはペテロに向かい、「あれは主だ」と叫びました(ヨハネ 21:7)。すると、舟が岸に着くのを待ち切れず、ペテロは、少しでも早く主のもとへ行こうとして「海にとびこんだ」のでした(ヨハネ 21:7)。ほかの人々が到着すると、すでに魚とパンの食事が用意されていました(ヨハネ 21:9 参照)。

食事が終わると、イエスはペテロの方を見て、まさにペテロが求めていた魚を指さしながら、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこれらを愛する以上に、わたしを愛するか」とその使徒にお尋ねになりました(欽定訳[英文]ヨハネ 21:15 から和訳)。ペテ

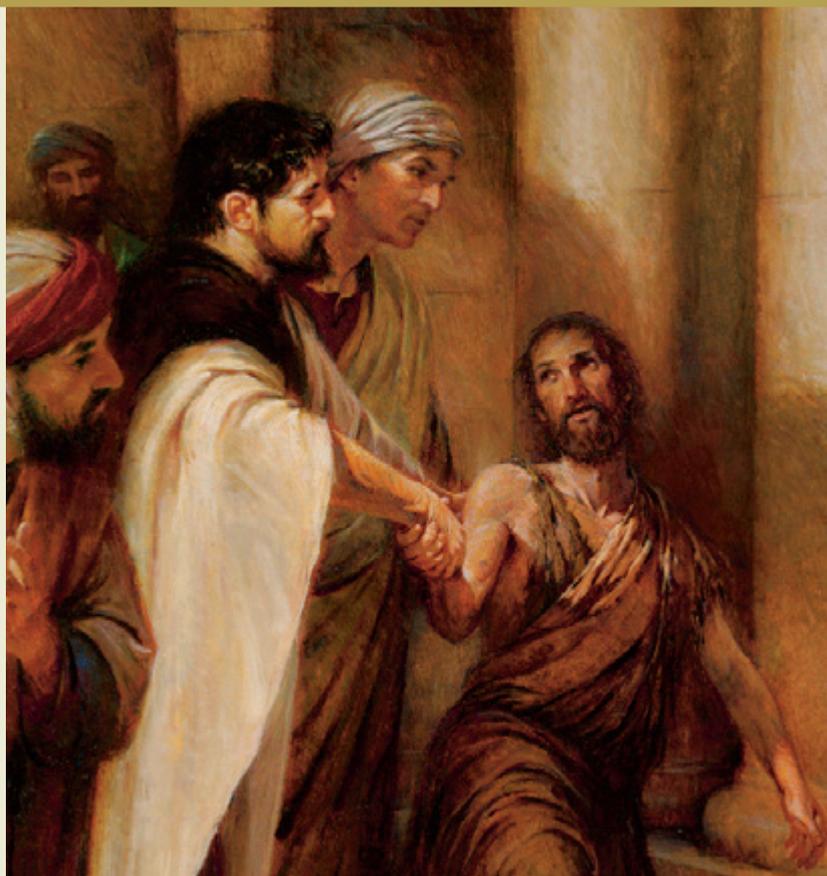
「ヨハネの子シモンよ、あなたはこれらを愛する以上に、わたしを愛するか。」

口はこの問いかけを意外に思ったに違いありません。言うまでもなく、魚よりも、すなわち漁よりも救い主を愛していました。恐らく信じ難い質問だと多少思ったのでしょう。ペテロはこう答えています。「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じます。」これに対して、キリストはこう述べておられます。「わたしの小羊を養いなさい。」(ヨハネ 21:15) 再度救い主はペテロに問いかけ、ペテロは再びキリストに対する愛を明言し、そしてキリストは再びこう命じられました。「わたしの羊を飼いなさい。」(ヨハネ 21:16) ペテロは、自らの愛を確認するよう3度目に求められたときに悲しく思いました。ペテロの3度目の証には、失望という感じが感じられます。「主よ、あなたはすべてをご存じます。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。」(ヨハネ 21:17) 再度、イエスは命じられます。「わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ 21:17)⁶ 主を心から愛しているならば、ペテロはもはや漁師ではなく、主の羊の群れの世話をする羊飼いでなければなりませんでした。⁷ そのとき以降のペテロの行動と働きを見れば、彼がキリストの特別な僕しもべであり証人であるという自分の務めと使命をようやく理解したことが分かります。

ペテロの証

ガリラヤでその日を過ごした後、ペテロは、キリストから託された務めを果たすために並外れた信仰と勇氣、熱意を持って出て行きました。使徒の指導者として、教会を管理する召しを受けて前進したのです。この職に伴う多くの義務を忙しく果たしながら、ペテロは、常にキリストの証人としての責任をおろそかにしませんでした。五旬節ごじゆんせつの日に聖霊が注がれたとき集まった大勢いっせいの人の前でも(使徒 2:1-41 参照)、奇跡的な癒しが行われた神殿のソロモンの廊でも(使徒 3:6-7, 19-26 参照)、捕らわれてユダヤ人の指導者たちの前に連れ出されたときにも(使徒 4:1-31 参照。使徒 5:18-20 も参照)、聖徒たちへの説教の中でも(使徒 15:6-11 参照)、また何通もの手紙の中でも証を述べました。

手紙の中で、ペテロは、自分がキリストの苦難についての直接の証人であることを思い、「やがて現れようとする栄光にあずかる者」になる希望を表明しています(1ペ



ペテロは並外れた信仰をもってキリストから託された務めを果たし、神殿で足の不自由な人に、「ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」と告げた。

テロ 5:1)。生涯の終わりが近づき、毅然きぜんとしてこう言っています。「わたしたちの主イエス・キリストもわたしに示して下さったように、わたしのこの幕屋を脱ぎ去る時が間近であることを知っている……。」(2ペテロ 1:14)

厳肅にこの思いを述べるに当たって、恐らくペテロは、何年も前にガリラヤの海辺でイエスから告げられた言葉を思い出していたことでしょう。そのときに救い主は、御自分の羊を養うようペテロに求めた後でこう告げられました。「あなたが若かった時には、自分で帯をしめて、思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとってからは、自分の手をのばすことになろう。そして、ほかの人があなたに帯を結びつけ、行きたくない所へ連れて行くであろう。」(ヨハネ 21:18) ヨハネはこう説明しています。「これは、ペテロがどんな死に方で、神の栄光をあらわすかを示すために、お話しになったのである。こう話してから、『わたしに従ってきなさい』と言われた。」(ヨハネ 21:19) 死を予期する年齢になり、ペテロが、実際にキリスト

に従う生涯を送ってきたこと、そしてキリストに従って死を迎える準備ができたことを知って、平安と喜びを見いだすことができたのは確かです。

新約聖書にペテロの働きと文書がもっとたくさん残されていればよかったのにと、わたしたちは思います。残されているものは宝であり、それによってわたしたちはこの忠実な漁師に心を引かれます。記録は少ないながらも、その記録から明らかなように、ペテロは、キリストの特別な証人となるためにキリストによって注意深く、個人的に備えられました。その記事を読むときに、キリストに対するわたしたちの信仰と理解がペテロの経験とともに深まることを、わたしたちは知ることができます。そのように深まることで、わたしたちは、個人の信仰の旅に希望と展望を持つことができます。キリストから期待されたことがペテロにはっきり知らされていることに注目し、その後で彼が救い主から託された務めを果たすために示した勇気と献身を目にすると、わたしたちは、こう考えるようになります。「キリストはわたしに何を期待しておられるだろうか。」「自分は十分に行っているだろうか。」キリストについてのペテロの証を研究するとき、わたしたちは、彼の言葉をそのまま繰り返したいと思う自分に気づきます。「わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」(ヨハネ 6:69) ■

注

- 1.使徒パウロの証と経験と教えは、ペテロよりももっと詳細に新約聖書の中に記録されている。しかし、パウロは最初の十二使徒会の一員ではなく、四福音書にその名前は出てこない。
- 2.マタイ 17:1-13; 26:36-46, 58; マルコ 13:1-37; ルカ 8:49-56; 9:28-36 参照
- 3.マタイ 17:24-27; 18:2-35; 19:27-20:28; ルカ 12:31-49; ヨハネ 13:6-19 参照
- 4.マタイ 14:31; 15:15-16; 26:33-34, 40; マルコ 8:32-33; ヨハネ 18:10-11 参照
- 5.ペテロと、彼がキリストから受けた度々の叱責について、スペンサー・W・キンボール大管長 (1895-

1985年)は次のように述べている。「イエスが何度かペテロを叱責されたのは、彼を愛しておられたからです。そしてペテロも偉大な人物で、その叱責によって成長することができました。箴言の中に、わたしたちのすべてが心に留めておくべき素晴らしい言葉があります。『ためになる戒めを聞く耳をもつ者は、知恵ある者の中にとどまる。教訓を捨てる者はおのれの命を軽んじ、戒めを重んじる者は悟りを得る。』(箴言 15:31-32) 指導する立場にあり、指導を受ける立場にあり、『ためになる戒め』に耳を貸すことのできる人は賢い人です。ペテロにそれができたのは、イエスから愛されていることを知っていたからです。それでイエスは、王国の中のきわめて大切な責任にペテロを備えさせることができになったのです。』(「イエス:完全な指導者」『聖徒の道』1983年8月号,8参照)

- 6.愛しているペテロに3度言わせることにより、キリストはあの苦しい試練の夜の3度の否認を埋め合わせる機会をペテロに与えられた、という見方をしている人たちがいる。例として、ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』673; ジェフリー・R・ホランド「いちばん大切な、第一のいましめ」『リアホナ』2012年11月号,83-84を参照。否認とそれから学べる教訓に関する話については、ゴードン・B・シンクレイ「ペテロは外に出て激しく泣いた」『聖徒の道』1979年10月号,89-92; ニール・A・マックスウェル「傷ついた兄弟」『聖徒の道』1982年7月号,71-72を参照。ほかにも何人かの注釈者が、ギリシャ語テキストに微妙な違いがあることに注目し、3回の問いかけはそれぞれペテロの召しに伴う異なる対象と義務を彼に教えるものであると示唆している。すなわち、救い主は「わたしを愛するか」と2度尋ねておられ、この「愛する」という言葉はギリシャ語では agapao (アガパオー) であり、社会的あるいは道徳的な愛を意味する。これは、神のような愛、すなわち無条件の愛であると考えられている。この愛は、別の箇所でも charity と英訳されている (例えば、1コリント 13:1-4; 2ペテロ 1:7; 黙示 2:19。訳注——英語の charity は慈愛を意味する)。イエスは3度目に、「わたしを愛するか」とペテロに尋ねられた。この愛にはギリシャ語の phileo (フィレオー) という言葉が使われており、これは、友情、愛情、あるいは兄弟愛を意味する。興味深いことに、3度の問いかけのそれぞれに対する返答として、ペテロは phileo (フィレオー) という言葉を用いて自分の愛を断言している。ペテロが主を愛すると最初に断言したときに、キリストは、「小羊」(ギリシャ語は arnion [アルニオン]、すなわち、若い羊や赤ちゃん羊の意)を「養いなさい」(ギリシャ語は bosko [ボスコ]、すなわち、草を食べさせる、放牧する、育てるの意)と命じられた。ペテロが主を愛すると2度目に断言したときに、キリストは、「羊」(ギリシャ語は probaton [プロバトン]、すなわち、おとなの羊の意)を「飼いなさい」(ギリシャ語は poimaino [ポイマイノ]、すなわち、気を配る、世話をするの意)と命じられた。キリストに対する自分の愛を3度目に断言することで、ペテロは、probaton (プロバトン) を bosko (ボスコ) することになった。このように、3通りの方法で3度問いかけることにより、救い主はその弟子に、御自分に対して慈愛と兄弟愛の両方を抱いているかどうか尋ね、また続く戒めの中でペテロに、老若を問わず羊たちを養い、世話をするようにと教えられたのであった。
- 7.この出来事とこれから学べる原則に関する詳細な考察として、ロバート・D・ヘイルズ「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」『聖徒の道』1997年7月号,93-96を参照

ペテロは、実際に
キリストに従う生涯を
送ってきたこと、
そしてキリストに従って
死を迎える準備が
できたことを知って、
平安と喜びを見いだす
ことができました。







十二使徒定員会
D・トッド・
クリストファーソン長老

信教の自由 —— 平和の要

わたしたちが手を携えて努力し、すべての人が自分の選んだ宗教を持ち、それを表明する自由を持てるようにすることによって、平和を追求することができますように。

2015年4月29日にブラジルのサンパウロで行われた異宗教会議において、クリストファーソン長老は次の話をしました。

今宵、こうして異宗教集会に招かれたことに心から感謝します。この集会には、イスラム教徒、シーク教徒、カトリック教徒、アドベンチスト派、ユダヤ教徒、福音派、モルモン、ネイティブスピリチュアリスト、そしてどの宗派にも属さない人々、ほかに多くの人々が皆、政治やビジネスの分野における指導者とともに、信教の自由について話し合い、信教の自由を祝うために出席しています。実に、こうして他に類を見ない形でわたしたちが一堂に会する、この行為そのものにすばらしい象徴的な意味があります。

とりわけ、この多様な文化と人々にあふれる国、ブラジルに来ることができたことをうれしく思っています。ブラジルは宗教の多様性をはじめ様々な多様性を尊重することで、これまでと同様、今後も力強く成長し続けることでしょう。ブラジルは、最近、政府が世界で最も宗教規制を掛けない国という評価を受けました。¹ わたしはこの重要な特徴を持つブラジルをほめたたえます。ブラジルは今、信教の自由を推進する世界的な動きを主導する責任があるのです。イエス・キリストは新約聖書で次のように言っておられます。

「あなたがたは、世の光である。山の上にある町〔この場合は、国〕は隠れることができない。

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:14, 16)

尊敬する仲間である皆さん、世界はいつまでも明るく輝くブラジルの光を必要としています。今宵、わたしたちはそのビジョンの持つ可能性を祝います。

背景となる基本原則

多くの哲学が競い合う世界にあって、信教の自由は平和の要です。信教の自由は、わたしたちが何を考え、何を信じるかを定める、つまり、神が心に語りかけてくださる真理に従うかどうかを決める余地を与えてくれます。また、様々な信条の共存を可能にし、弱者を守り、衝突をうまく切り抜ける助けとなります。したがって、欧州人権裁判所が多数の判例で賢明にも結論づけているように、信教の自由は信仰を持つ人々にとってきわめて重要なものであり、「無神論者、不可知論者、懐疑論者、無関心層にとって貴重な資産でもあります。」これはすなわち、「人々が何世紀にもわたり多大な犠牲を払って勝ち得てきた民主社会と切り離すことのできない多元主義が、信教の自由に懸かっている」² からです。

しっかりとした自由とは、過去の政治哲学者の言う、何も求めない「消極的」自由ではありません。それがどれほど重要であるとしても、それ以上のものです。むしろ、はるかに豊かな「積極的」自由です。すなわち法的にも政治的にも社会的にも、多様な信条に対する寛容、敬意、思いやりのある環境で自らの信じる宗教に従って生きる自由なのです。

わたしたちは信教と信条の自由のもとに、自らの核となる信念を確立します。この信念がなければ、ほかの人権はすべて無意味なものになるでしょう。ほんとうに信じていることを口に出せずに、言論の自由を主張できるでしょうか。同じ理想を共有する人々と集まることができずに、集会の自由を主張できるでしょうか。自分たちが真に何者であるかを公然と文字にしたり広く知らせたりできずに、出版の自由が享受できるでしょうか。

うれしいことに、信教の自由が拡大するという点で、世界は著しい進展を遂げてきています。わたし自身、これまでの人生において、その進展を目の当たりにしてきました。一例を挙げれば、1948年、わたしがまだ3歳だったとき、国連総会は世界人権宣言を採択しました。この宣言は「すべての人が思想、良心および信教の自由を〔持つよう〕」³ 提唱す

るものでした。

21歳のときには、この国連総会の宣言に拘束力を持たせる条約が採択されました。「市民のおよび政治的権利に関する国際規約」として知られるこの条約は、人はそれぞれ「自ら選択する宗教または信条を有する自由、または受け入れる自由、ならびに単独で、または他の者と共同して、および公に、または私的に、礼拝、儀式、行事および教導によってその宗教または信条を表明する自由」を持つべきであるという考えを強化するものでした。⁴ この条約は、それから10年後の1976年に発効しました。

2017年現在、この条約の締約国は169であり、事実上、全世界のすべての先進国が締約していることとなります。⁵ 1969年に採択され、1978年以来効力のある米州人権条約(コスタリカ・サンホセ協定)も、これとほとんど同じ言い回しで信教の自由を擁護しています。⁶

これまでの進歩には強力な理由があり、その同じ理由を原動力として、わたしたちはもっと多くのことを行うべきです。信教の自由と、多くの好ましい経済上・公衆衛生上の利益、および市民の受ける恩恵との間には、強い関連性があります。⁷ 宗教を信じる人は、一般的により良い家族生活やしっかりとした結婚生活を送り、薬物の乱用や犯罪が少なく、教育水準が高く、ボランティアや慈善事業への寄付に積極的であり、勤勉に働き、長命で、健康で、収入が高く、福利や幸福感の面でも高いレベルにあります。⁸ 信教の自由と宗教の実践が社会の強化につながっていることは明らかです。

警戒と協力の必要性

残念ながら、信教と信条の自由に対する保護は、往々にして不十分で、見過ごされ攻撃を受けることがよくあります。大きな圧力が加えられ、これから花開こうとしている信教の自由すら抑えつけようとする動きがあります。歴史的にきわめて精力的に信教の自由を擁護した国々であってもそのようなのです。こうした圧力は多くの国々で優勢であり、勢力を拡大しつつあります。このブラジルでわたしたちが享受しているような喜びは、世界のほとんどの地域では考えられません。

驚くべきことに、世界人口の77パーセントに当たるおよそ55億の人々が、信教の自由に厳しい制限または非常に厳しい制限のある国に住んでいます。この数値は、ほんの6年前の68パーセントから上昇しています。⁹

欧米の民主主義国家は事実上すべて、信教の自由の原則



を価値あるものと信じると主張します。論争を生み出す原因は、この原則の適用の仕方なのかもしれません。信教の自由が脅かされるのは、通常、宗教を信じる人々や団体が、政治的多数派など権力者の価値観や目標に反する言動を取ったとき、またはそのような言動を取るのを拒否したときです。宗教はたいてい反体制文化であり、嫌われることが多いのです。そのため、信教の自由は、原則として広く支持されていても、現実には激しい反対を受けることがよくあります。

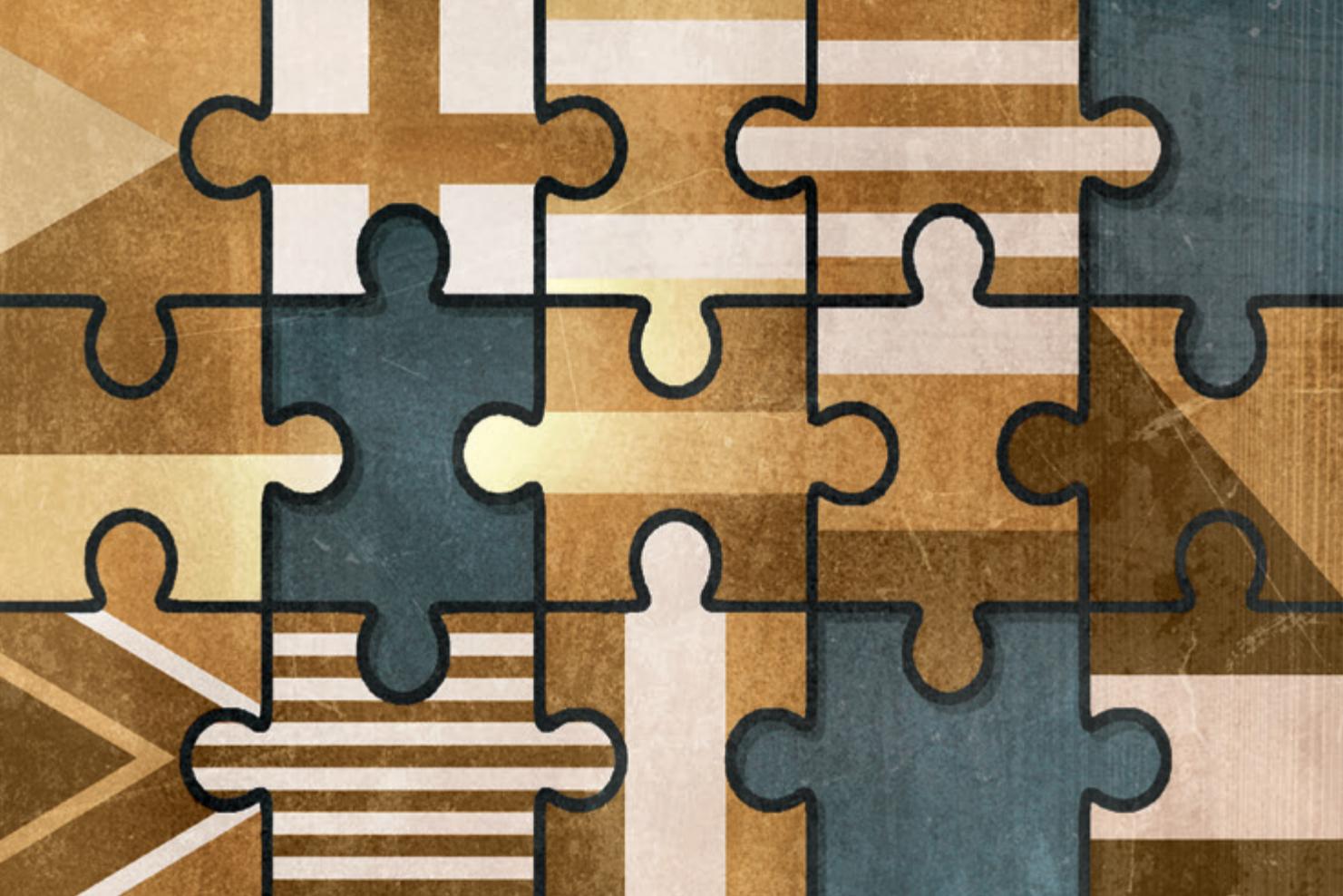
ヨーロッパと北米では様々な問題について論争が起こっています。例えば、雇うべき聖職者の人選を教会が行っているのか、職場や学校で宗教的な衣服やシンボルを身に着けているのか、雇用者は被雇用者の避妊具や堕胎の費用を支払わなければならないのか、本人の信仰にもとるサービスを提供するよう強制できるか、道徳的標準や信仰を理由に職場や大学で認定を拒否したり取り消したりすることができるか、宗教学生団体にその団体と

は反対の信条を持つ学生を受け入れるよう要求できるか、といった問題です。

ブラジルも宗教的多様性がありながら、日曜日の業務休止、宗教的な衣服の着用、アフリカ系ブラジル人の伝統に対する保護など、同じような問題に取り組んでいます。こうした問題の多くが解決し、信教の自由が守られてきたことに感謝しています。ブラジルがその多様性を守り続けるうえで、宗教的信条の自由な実践を含む様々な問題を迅速かつ適切に解決することは非常に重要です。宗教家や宗教団体が公然と、そして非難を受けることなく、自らの宗教に従えるようにすることで、ブラジルは引き続き信教の自由の明るく希望に満ちた模範となるでしょう。

皆さんが祖国で築き上げてきたこの自由をしっかりと守り、世界において勇気をもって信教の自由を推進して下さるようお願いいたします。他人の基本的な人権をも守ることになる公正かつバランスの取れた方法で信教の自由を守り、保護することは急務です。

1948年、国連総会は世界人権宣言を採択しました。この宣言は「すべての人が思想、良心および信教の自由を〔持つよう〕」提唱するものでした。21歳のときには、この国連総会の宣言に拘束力を持たせる条約が採択されました。2017年現在、この条約の締約国は169です。



末日聖徒イエス・キリスト教会は、この重要な業に取り組む皆さんやほかの人々を喜んで支持します。この取り組みは効を奏するとわたしたちは楽観的に見っていますが、こうした取り組みは皆で力を合わせて行わなければなりません。この戦いにだれも単独で勝利を得ることはできないからです。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、この重要な業に取り組む皆さんやほかの人々を喜んで支持します。この取り組みは効を奏するとわたしたちは楽観的に見っていますが、こうした取り組みは皆で力を合わせて行わなければなりません。この戦いにだれも単独で勝利を得ることはできないからです。同僚である十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老が、今回の会議に似たフォーラムで最近語ったことをわたしも繰り返します。

「神を信じ、善と悪が現実に存在することを信じるわたしたちが、さらに結束して自分たちの信教の自由を擁護し、神を信じる信仰と、神が定められた善と悪の原則を宣べ伝え、実践できるようにすることはぜひとも必要なことです。……わたしの提案している一致および広範囲に及ぶ協調体制に必要なのは、人間の行動には至高者が定められた善と悪があるという共通の信念だけです。基本的な〔原則〕を信じる人は皆、もっと結束して、どのようなものであれ、自分たちの宗教的信条を主張し

実践する自由を擁護し、強化すべきです。わたしたちは同じ道をともに歩まなければなりません。それは、必要とあらば、自分たちの信条に従って、個々別の道を追求できる自由を確保するためです。」¹⁰

これは困難な務めであり、絶えず注意して進めなければなりません。最も重要なことなのです。

締めくくりに、教義と聖約の聖句を読みます。この聖句は1835年に啓示されたものです。当時、憲法上の安全は保障されていましたが、わたしの先祖たちは家を追われました。ほかの人たちの目に新しく奇異な宗教と映るものを信じていたからです。ですから、現代のわたしたちはこの言葉を肝に命じなければなりません。特に、昔と同様、今日においても、信教の自由への制限は、その多くが、この原則を支持はしても、実際には実践できないことのある国々で課せられているからです。

わたしたちの教会の聖文にはこう書かれています。「良心の自由な行使……を各個人に

保証する法律を制定し、かつ固く守らないかぎり、いかなる政府も平和に存立することはできない。」政府は「犯罪を阻止すべきであるが、決して人の良心を支配すべきではない。罪のある者を罰すべきであるが、決して心の自由を抑圧すべきではない。」(教義と聖約 134:2, 4)

個人でも地域社会でも、家庭内でも、家庭の外でも、公私にわたって、また礼拝や儀式、その実践や教えにおいて、すべての人が自ら選んだ宗教または信条を持つ自由とそれを表明する自由を保持し、守るために、ともに取り組み、平和を追求することができますように。■

この説教(英語)の全文は、mormonnewsroom.org からご覧いただけます。

注

1. "Brazil Has Lowest Government Restrictions on Religion among 25 Most Populous Countries," July 22, 2013, theweeklynumber.com/weekly-number-blog; "Restrictions and Hostilities in the Most Populous Countries," Feb. 26, 2015, pewforum.org 参照
2. *Kokkinakis v. Greece*, 3/1992/348/421 (May 25, 1993), para. 31; *Nolan and K. v. Russia*, 2512/04 (Feb. 12, 2009), para. 61. *Serif v. Greece*, 38178/97 (Dec. 14, 1999), para. 49; European Convention on Human Rights, Article 9 も参照
3. United Nations, Universal Declaration of Human Rights, Article 18, Dec. 10, 1948, un.org/en/documents/udhr
4. International Covenant on Civil and Political Rights, Article 18, Dec. 16, 1966, ohchr.org/EN/ProfessionalInterest/Pages/CCPR.aspx
5. International Covenant on Civil and Political Rights 参照。W. Cole Durham Jr., Matthew K. Richards, and Donlu D. Thayer, "The Status of and Threats to International Law on Freedom of Religion or Belief," in Allen D. Hertzke, ed., *The Future of Religious Freedom: Global Challenges* (2013), 31 - 66 も参照

6. American Convention on Human Rights "Pact of San José, Costa Rica," Nov. 22, 1969 (Inter-American Specialized Conference on Human Rights), oas.org 参照。Juan G. Navarro Floria and Octavio Lo Prete, "Proselitismo y Libertad Religiosa: Una Visión desde América Latina," in *Anuario de Derecho Eclesiástico del Estado*, no. 27 (2011), 59 - 96 も参照
7. Brian J. Grim, Greg Clark, and Robert Edward Snyder, "Is Religious Freedom Good for Business?: A Conceptual and Empirical Analysis," *Interdisciplinary Journal of Research on Religion*, vol. 10 (2014), 4 - 6; Paul A. Marshall, "The Range of Religious Freedom," in Paul A. Marshall, ed., *Religious Freedom in the World* (2008), 1 - 11 参照
8. Patrick F. Fagan, "Why Religion Matters Even More: The Impact of Religious Practice on Social Stability," *Backgrounders*, no. 1992 (Dec. 18, 2006), 1 - 19; Robert D. Putnam and David E. Campbell, *American Grace: How Religion Divides and Unites Us* (2010), 443 - 492 参照
9. "Latest Trends in Religious Restrictions and Hostilities," Feb. 26, 2015, pewforum.org 参照
10. Dallin H. Oaks, "Preserving Religious Freedom" (lecture at Chapman University School of Law, Feb. 4, 2011), mormonnewsroom.org.

家庭の夕べのアイデア

信 教の自由の大切さについて家族と話し合います。例えば、あなたの国の市民はどのようにして礼拝する自由を獲得したでしょうか。あなたの国ではどのような出来事がきっかけとなって信教の自由が得られましたか。この答えとして、法律、抗議行動、さらには戦争などが含まれるかもしれません。家族がこのテーマについてもっと興味を持って学べるように豆知識的な問題を考えて質問してもいいでしょう。さらに、以下のような問題について話し合ってもいいかもしれません。信教の自由はわたしたちの生活にどのような祝福をもたらしているでしょうか。信じる宗教を自由に実践できないとしたら、わたしたちの生活はどのように変わってくるでしょうか。どうすればわたしたち自身と周りのために信教の自由を推進することができますでしょうか。





中央幹部七十人、
教会歴史家兼記録者
スティーブン・
E・スノー長老

聖徒たち

末日における イエス・キリスト教会の物語

18 61年、ブリガム・ヤング大管長（1801 - 1877年）は教会歴史家たちに、手法を変えるよう要請しました。「物語調で書くように」と助言し、「書く内容は10分の1程度にしてよい」と述べたのです。¹

次のページからの話は、その助言に従って書かれています。『聖徒たち——末日におけるイエス・キリスト教会の物語』という新しい4巻のシリーズを紹介でき、うれしく思います。第1章は今月号に掲載、第2章以降もこれから数か月わたって本機関誌に掲載される予定です。第1巻は年内に読めるようになり、第2巻以降もそれに続きます。

『聖徒たち』は、「教会の記録と歴史を絶えず書き残す」ようにという主の命令（教義と聖約 47:3）にこたえて作成されました。従来の教会歴史と異なり親しみやすい文体で書かれた歴史物語ですから、青少年も成人も気軽に読めることでしょう。

といっても、『聖徒たち』は歴史小説ではありません。過去に実在した人々の記録に基づいた実話なのです。どんな細部や会話の一言にも、歴史記録の裏付けがあります。各章の最後に付いている「注」では、そうした歴史記録やそのほかの資料〔英語のみ〕が参照できるようになっています。実際の記録を読みたい人や、関連するテーマについて理解を深めたい人、ほかの物語を楽しみたい人に向けて、物語の最後にはリンクが張られており、オンライン（history.lds.org〔英語のみ〕）からも資料を読むことができます。

深みのある回復のタペストリー

この物語は聖文ではありませんが、聖文と同じように、神聖な真理と、不完全な人々がイエス・キリストの贖罪を通して聖徒になろうと努力する物語が収められています（モーサヤ 3:19 参照）。4巻にわたり、聖徒を完全な者とするという務めを果たそうと励む主の教会の物語を伝えています（エペソ 4:11 - 13 参照）。

ノーブーを描いたこの絵は、『聖徒たち』第1巻の表紙を飾る予定です。



教会は複数の巻にわたる歴史書を過去に2度出版したことがあります。『聖徒たち』は、それとはまったく異なる形式、文体、また読者を対象として書かれています。最初の歴史書は1830年代、ジョセフ・スミスによって作成が開始され、1842年から出版されました。² 2つ目のものは、1930年に教会歴史家補佐のB・H・ロバーツにより出版されています。³ 回復された福音がその後全世界に広まっていることと、「教会のため……、……後の世代のためになる」歴史を絶えず書き残すよう主が命じておられることを考え合わせると（教義と聖約69:8）、さらに多くの末日聖徒を物語に登場させてもよい時期が来ているのではないのでしょうか。

『聖徒たち』には、教会の初期から現在に至るまでに生きた、平凡な男女の物語が多く登場します。また、教会歴史上よく知られている人々や出来事に関する、新たなエピソードや洞察も盛り込まれています。読者はどの話を読んでも、自分より前の時代を生き、今日の教会を築き上げてきた聖徒たちに共感し、感謝の気持ちを抱くようになることでしょう。皆さんと同じように、彼らは困難や成功を経験しながら、シオンを確立するために犠牲を払ったのです。織り合わされた彼らの物語と皆さんの物語は、深みのある回復のタペストリーを生み出すことでしょう。

聖なる過去の物語

モルモン書の記録者たちは、大版と小版の両方を保管し

ていました。大版には政治や戦いの歴史が記録され、小版は「神聖な説教や重要な啓示、あるいは預言」を含む「いちばん貴い」「神にかかわる事柄」を書き記すために使われました（1ニーファイ6:3；モルモン書ヤコブ1:2, 4）。小版は「キリストのため、またわたしたちの民のために」記録されたのです（モルモン書ヤコブ1:4）。『聖徒たち』は、「小版」の歴史、すなわち、神聖な過去の出来事を中心とする記録を刻むことを目的としています。そのため、収録できる話の中から、末日聖徒の生活において主がどのような働きをされたかを如実に示す物語のみを収めました。

『聖徒たち』は、過去に生き、主の助けによって成長した不完全な人々の物語ですが、それだけでなく、今を生きる、不完全ながらも常に主を覚えていたいと思っている人々に向けられた物語でもあります。この物語は、救い主が御自分の民に対していかに慈悲深くあり、弱い民を強められたか、全世界の聖徒たちがいかに団結して神の業を進めたかを、皆さんに思い起こさせてくれることでしょう。■

注

1. Brigham Young, in Wilford Woodruff, Journal, Oct. 20, 1861, Church History Library, Salt Lake City
2. History of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, ed. B. H. Roberts (1902–12 [vols. 1–6], 1932 [vol. 7]) 参照
3. B. H. Roberts, A Comprehensive History of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints: Century I, 6 vols. (1930) 参照

『聖徒たち』を読むには

この全4巻は14の言語で書籍として出版され、オンライン（history.lds.org）や、「福音ライブラリー」アプリでも読めるようになります。また幾つかの言語では、電子書籍とオーディオブックでも閲覧可能となる予定です。

各巻の内容

- 第1巻（年内公開予定）には、ジョセフ・スミスの子供時代から1846年に聖徒たちがノーブー神殿で儀式を受けるまでの、回復の物語が収められます。
- 第2巻では合衆国西部に集合する聖徒たちの苦難の物語が描かれ、1893年のソルトレーク神殿の奉献で幕を閉じます。

- 第3巻では教会が全世界に広がっていく様子が語られ、1955年、スイス・ベルン神殿の奉献で終わります。
- 第4巻では、神殿が世界中に存在する、ごく最近の物語を読むことができます。

そのほか、幾つかの特定のテーマについては、各巻の内容を裏付ける詳細な資料がオンラインで公開予定です。





第 1 章

信仰をもって願い求める

これは、『聖徒たち——末日におけるイエス・キリスト教会の物語』という、4巻にわたる教会の新しい歴史物語の第1巻第1章です。これは14の言語で、印刷物および「福音ライブラリー」アプリの「Church History (教会歴史)」の項と saints.lds.org で読めるようになります。これに続く教章は本機関誌に順次掲載され、年内に第1巻のすべての章が公開予定です。47の言語で「福音ライブラリー」アプリと saints.lds.org でも公開予定です。

18 15年、インドネシアのスンバワ島には、最近の雨で緑が青々と生い茂っていました。何世代にもわたり、年ごとに訪れる乾季に備え、人々はタンボラという火山のふもとで水田の耕作に励んでいました。

4月5日、数十年間の眠りから突如目覚めた火山が、灰と炎を吹き出しました。何百キロと離れた人々にも、大砲のような音が聞こえたと言います。数日にわたって小規模の噴火が続き、4月10日の夜には、ついに火山全体が噴火しました。赤々とした3本の噴煙が空を目がけて立ち上り、一つの巨大な熱風の柱となりました。液火は山肌を流れ落ち、ふもとの村を覆います。竜巻が辺り一帯で猛威を振るい、木を引き抜き、家屋をなぎ倒していきました。¹

この混乱状態は一晩中、その翌日も続きました。火山灰は何キロも先に至るまで地と海を覆い、60センチ以上積もったところもありました。昼間が真夜中のようになり、荒れ狂う高波が海岸線に打ち寄せ、穀物を損ない、村を飲み込みました。何週間にもわたり、タンボラは灰や石、火を降らせました。²

その後何か月もの間、噴火の影響は世界中に広がります。壮大な夕焼けを目にした世界各地の人々が畏怖の念に打たれましたが、その鮮やかな色彩は、地に降り注いだ火山灰の爪痕を覆い隠すだけでした。翌年、天候は予測不能かつ破壊的なものとなります。³

噴火はインドにおいて気温の低下を招き、コレラにより何千もの人々が命を落とし、家族が崩れていきました。肥沃な中国の盆地では、通常穏やかな気候の夏に吹雪が吹き荒れ、洪水により穀物が損なわれました。ヨーロッパでは食糧の供給が縮小し、飢餓と混乱がもたらされることとなります。⁴

そこかしこで、人々は奇妙な天候によって引き起こされた苦難と死についての説明を探し求めました。インドのヒンドゥー教寺院では、聖職者の祈りと経を唱える声が響き渡り、中国の詩人は、苦痛と喪失への問いを詩に表しました。フランスやイギリスの国民は、聖書で預言されている恐るべき災いが及ぶのではないかと恐れ、ひざまずきました。北米では、神が不従順なクリスチャンを罰しておられると牧師が説き、警告の声を上げて宗教心をかき立てます。

来るべき破滅から救われる方法を知ろうと、人々は各地で教会や伝道集会に押し寄せたのでした。⁵

翌年になっても、タンボラの噴火は北米の天候に影響を及ぼしました。春に雪が降り、霜が降りたために穀物が損なわれた1816年は、夏のない年として人々の記憶に残っています。⁶ アメリカ合衆国北東部のバーモント州では、ジョセフ・スミス・シニアという名の農夫が何年にもわたり岩山に苦しめられていました。その時節、容赦のない霜のために穀物がしなびていくのを目にし、自分たちが財政的な破綻に直面していることを悟ったジョセフ・スミス・シニアと妻のルーシー・マック・スミスは、このままとどまることに先の見えない不安を抱きました。

もう若くはなかった45歳のジョセフ・シニアは、新たな土地で一から出直さなければならないと思うと気が遠くなりましたが、年長の息子たち、18歳のアルビンと16歳のハイラ

ムに土地の開墾や家の建築、穀物の植え付けと収穫を手伝ってもらえるだろうと思いました。13歳の娘、ソフロニアはもう大きいので、家事や農場周りの仕事をしてルーシーを手伝うことができます。年下の息子たち、8歳のサミュエルと5歳のウィリアムも手伝いができるようになっていましたし、3歳のキャサリンと生まれたばかりのドン・カーロスもやがて力になってくれるでしょう。

ところが真ん中の息子、10歳のジョセフ・ジュニアは別でした。4年前のこと、足の感染部位を取り除くために手術を受けたジョセフ・ジュニアは、それ以来、松葉づえをついていたのです。足は以前のように丈夫になりつつあったものの、痛む足をひきずって歩かなければならず、成長したジョセフ・ジュニアがアルビンやハイラムのように頑丈な体を持てるのか、ジョセフ・シニアには分かりませんでした。⁷

支え合うことができるという確信を胸に、スミス一家はバーモント州の家を離れ、より良い土地へと移り住む決意を固めます。⁸ 多くの隣人たちと同様、ジョセフ・シニアはニューヨークへ向かうことにしました。そこで掛けて購入できる良い農場を見つけ、ルーシーと子供たちを呼びにやり、一家で出直そうと考えていたのです。

ジョセフ・シニアがニューヨークへと旅立つに当たり、アルビンとハイラムは見送りのために一緒に道を歩いて行きました。

ジョセフ・シニアは妻と子供たちを心から愛していましたが、それまで、家族に安定した生活を送らせてやることはできませんでした。不運や失敗に終わった投資のために、家族は貧しく不安定な状況に置かれていたのです。もしかすると、ニューヨークでは違うかもしれません。⁹

次の冬、ジョセフ・ジュニアは母親、兄弟、姉妹とともに、雪の中、足を引きずりながら、パルマイラというニューヨークの村を目指して西へと向かいます。その村の近くに良い土地を見つけたジョセフ・シニアは、一家の到着を待っていました。

ジョセフ・シニアに移動を手伝ってもらえることができなかったため、ルーシーはハワード氏という男性を雇い、幌馬車の手綱を取ってもらいました。ところが道中、ハワード氏は家財を粗雑に扱い、支払われた賃金をギャンブルと酒に使い果たしてしまいます。西へ向かう別の家族と合流すると、ハワード氏はジョセフを幌馬車から追い出し、その家族

の娘たちを自分の隣に座らせて手綱を引きました。

歩くことがジョセフにとってどれほどの痛みを伴うものか知っていたアルビンとハイラムは、何度かハワード氏に抗議しましたが、ハワード氏はその度に、鞭の柄で二人を殴るのでした。¹⁰

ジョセフがもっと大きければ、自分でハワード氏に抗議したことでしょ。痛む足のためにジョセフは働くことも遊ぶこともできませんでしたが、その強靱な精神力が、弱い肉体を補っていました。ジョセフの足を切開し、感染した骨の一部を削り取る前のこと、医師たちは、苦痛を和らげるために縄で縛るか、ブランデーを飲ませようとしたのですが、ジョセフは、父親に支えてもらうことだけを望みました。

終始意識がはっきりとしていたジョセフの顔面は蒼白で、頬には汗が伝います。いつもは強い母親も、ジョセフの叫

び声を聞いて気を失いそうになりました。それ以降、ルーシーはどんなことでも耐えられると思ったはずでした。¹¹

足を引きずりながら幌馬車の横を歩いていたジョセフは、母親がハワード氏に耐えているのが分かりました。これまで300キロ以上もの旅の間、ルーシーは御者の不品行によく忍耐しました。

パルマイラから160キロほど来た所で、ルーシーが一日の旅の準備をしていると、アルビンが走って来ました。ハワード氏が

スミス一家の家財や荷物を道に放り出し、馬と幌馬車ごと去ろうとしているのです。

ルーシーは酒場でハワード氏を見つけると、「天に神がおられるように、あの幌馬車も馬も、積んである家財も、わたしのものです」と宣言しました。

見回すと、酒場は男女であふれ返っています。その大半はルーシーのような旅人でした。客の視線を受け止めながら、ルーシーはこう言いました。「この男は、旅を続けるためのあらゆる手段を奪い、わたしと8人の幼い子供たちをひどい貧困に陥れようとしているのです。」

ハワード氏は、ルーシーが幌馬車の御者として支払った賃金はすでに使い果たしてしまい、これ以上先へは行けない、と言います。

ルーシーはこう言い放ちました。「もうあなたに用はありません。わたしが皆を連れて行きます。」

ルーシーはハワード氏を酒場に残し、何が起ころうと、子



バーモント州シャロンにあるこの訪問者センターは、1805年12月23日にジョセフ・スミスが生まれた場所に建っています。背後に見える石造りのオベリスクは、土台から上が38.5フィート（約11.7m）あり、1フィートがジョセフ・スミスの生涯の1年を表しています。

供たちを父親のもとに届けることを誓います。¹²

行く手は寒く、泥でぬかるんでいましたが、ルーシーは家族を安全にパルマイラまで率いて行きました。子供たちが父親にしがみつ、顔にキスをするのを眺めながら、そこにたどり着くまでに受けたあらゆる苦しみが報われたかのように感じました。

間もなく一家は町に小さな家を借り、自分たちの農場を手に入れる方法について話し合います。¹³ 最も良いのは、近くの森の土地を買うための頭金がたまるまで働くことだという結論に至りました。現金を手に入れるべく、ジョセフ・シニアと年長の息子たちは井戸を掘り、柵用の木を切り、干し草を収穫し、一方ルーシーと娘たちはパイルートピア、装飾布を作っては売り、一家の食費に充てたのでした。¹⁴

成長するにつれ、ジョセフ・ジュニアの足は丈夫になり、パルマイラをたやすく歩き回れるようになりました。町に出ると、ジョセフは様々な地域からやって来た人々と交わるようになります。その多くは、霊的な渴望を満たし、人生における苦難の説明を求めるうえで、宗教を頼みとしていました。ジョセフと一家は教会に属していませんでしたが、隣人の多くは、背の高い長老派の教会堂やバプテスト派の集会所、クエーカー教徒の会堂、あるいはメソジスト派の巡回説教者が時折折道集會を開く、野外集会所などで礼拝していました。¹⁵

ジョセフが12歳のころ、パルマイラで宗教的な論争が起きます。ジョセフは読書家ではありませんでしたが、物事を深く考えるのが好きでした。不滅の魂についてもっと知りたいと思い、牧師の話に耳を傾けましたが、説教から確信を

得ることはできませんでした。ジョセフは罪に満ちた世界に生きる罪人であり、救いをもたらすイエス・キリストの恵みなしには無力な者である、と彼らは告げます。ジョセフはそのメッセージを信じ、自らの罪を後悔していたものの、どこに救いを見いだせばよいのか分かりませんでした。¹⁶

教会に行けば助けを得られるかもしれないと思いましたが、礼拝の場所を一つに定めることができません。人はいかにして罪の束縛から自由になることができるのかと、様々な教会がとめどなく言い争っていたのです。しばらくの間その論争を聴いていたジョセフは、人々が同じ聖書を読みながら、その意味について異なった結論に達していることに心を痛めました。ジョセフは神の真理がどこかに存在することを信じていましたが、それを見いだす方法を知らなかったのです。¹⁷

それは両親にとっても同じでした。ルーシーとジョセフ・シニアはどちらもクリスチャンの家庭で育ち、聖書とイエス・キリストを信じていました。母ルーシーは、しばしば子供たちを連れて教会の集會に行きました。何年も前に姉を亡くしてからというもの、イエス・キリストの真実の教会を探していたのです。

ジョセフが生まれる数年前のこと、死の淵に立たされたルーシーは、真理を見いだす前に死んでしまうのではないかと不安に襲われました。救い主と自分との間に、暗くて寂しい裂け目があるのを感じ、次の世に行く準備がまだできていないことを悟ったのです。

ルーシーは一晩中寝ずに神に祈り続け、もし自分を生かしてくださるならば、イエス・キリストの教会を探すと神に約束

しました。祈りにこたえて主の声がルーシーに語りかけ、求めるならば必ず見いだすであろうと告げられます。それ以来、以前よりも多くの教会に集うようになりましたが、正しい教会は見つかりません。救い主の教会はもはや地上に存在しないのではないかと感じたときでさえ、教会に行かないよりは行った方がまだよいと確信し、ルーシーは探し続けます。¹⁸

妻と同様、ジョセフ・シニアもまた真理に飢えていましたが、間違った教会に行くよりはまったく行かない方がよいと感じていました。父の勧告に従い、ジョセフ・シニアは聖書を調べ、熱心に祈り、イエス・キリストが世を救うために来られたことを信じていました。¹⁹ それでもジョセフ・シニアは、真実だと感じていることと、周りの教会で目にする混乱と不一致との折り合いをつけることができません。ある晩ジョセフ・シニアは、言い争う牧師たちの姿、彼らが牛のようにうなり声を上げながら角で地面を掘る様子を夢で見て、牧師たちは神の王国についてわずかな知識しか持っていないのではないかという懸念をいっそう深めます。²⁰

両親が地元の教会に満足していない様子を目にしていたジョセフ・ジュニアは、ますます混乱するばかりでした。²¹

ニューヨーク州バルマイラ近郊にあるこの丸太造りの家は、スミス家がバーモント州から移って来た後にこの場所に建てた家を復元したもので、奥に見えるのは聖なる森です。



その魂は危機に瀕^{ひん}していましたが、満足のいく答えをくれる人はだれもなかったのです。

1年以上お金をためたスミス一家は、バルマイラのすぐ南に位置するマンチェスターの森 40 ヘクタールの代金を支払えるようになりました。一家はその土地で、雇われ仕事の合間を縫い、カエデの木に穴を開けて甘い樹液を取り、果樹を植え、野を開墾して穀物を育てます。²²

その地で働きながら、若きジョセフは自らの罪と魂の福利について心を悩ませ続けていました。バルマイラでの宗教的な信仰復興は落ち着きを見せていましたが、牧師たちは依然としてその地域のそこかしこで改宗者獲得のために争っていました。²³ ジョセフは昼も夜も、太陽や月や星が秩序正しく、威厳をもって空を運行するのを眺めては、生命力に満ちた地球の美しさにほれほれとしました。また周囲の人々を見ては、その強靱^{あかし}さと知性に驚嘆しました。すべてのものが、神が実在し、御自分の姿にかたどって人類を創造されたことを証しているように見えます。とはいえ、ジョセフはどのようなにして神との交わりを持てるのでしょうか。²⁴

1819年の夏、ジョセフが13歳だったころのことです。

メソジスト派の牧師たちがスミス家の農場から数キロ離れた所で一堂に会して集会を開き、その地方一帯に出かけて行き、ジョセフ一家のような家族に改宗を促しました。牧師らの取り組みが功を奏したことにより、この地域のほかの聖職者たちは不安を抱き、程なく改宗者獲得のための争いが激化します。

ジョセフは様々な集会に出席し、心を揺さぶる説教に耳を傾け、改宗者たちが喜びの声を上げるのを目にしました。ジョセフも彼らのように叫びたいと思いましたが、言葉と見解の争いの真ただ中のように感じるのがしばしばありました。「これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか」と自問します。「もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。」キリストの恵みと憐れみが必要だと分かっていたはいましたが、あまりに多くの人や教会が宗教に関して対立していたため、どこに答えを見いだせばよいか分からなかったのです。²⁵

答えを見つけられるという望みと心の平安を失ってしまったかのような喧噪けんそうの中、真理を見いだせる人などいるのだろうかと思ったものです。²⁶

あるとき説教を聴いていると、ジョセフは牧師が新約聖書、ヤコブの手紙の第1章を引用するのを耳にしました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。」²⁷

ジョセフは家に帰ると、聖書のその節を読みました。「この聖句が、このとき、かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来たのであった」と後に回想しています。「それはわたしの心の隅々に大きな力で入り込んで来るように思われた。もしだれか神からの知恵を必要とする者がいるとすれば、それは自分であることを悟って、わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした。」ジョセフはこれまで、すべての答えを備えたものであるかのように聖書を受け止め、調べてきました。ところが今、その聖書がジョセフに、自らの疑問の答えを神に直接求めることができるかと告げているのです。

ジョセフは、祈ることにしました。それまで声に出して祈ったことはありませんでしたが、聖書の約束を信頼したのです。「疑わないで、信仰をもって願い求めなさい」とあります。²⁸ たとえつたない言葉であっても、神はジョセフの問いに耳を傾けてくださるでしょう。■

引用元の文献の全リストは、saints.lds.org (英語) でご覧になれます。「テーマ」という言葉が注釈にある場合は、追加情報がオンライン (saints.lds.org) に掲載されています。

注

1. Raffles, "Narrative of the Effects of the Eruption," 4-5, 19, 23-24
2. Raffles, "Narrative of the Effects of the Eruption," 5, 7-8, 11
3. Wood, Tambora, 97
4. Wood, Tambora, 78-120; Statham, Indian Recollections, 214; Klingaman and Klingaman, Year without Summer, 116-18
5. Wood, Tambora, 81-109; Klingaman and Klingaman, Year without Summer, 76-86, 115-20
6. Klingaman and Klingaman, Year without Summer, 48-50, 194-203
7. Joseph Smith History, 1838-56, volume A-1, 131; Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 2, [11]-book 3, [2]. テーマ: ジョセフ・スミスの足の手術
8. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 3, [3]; Stilwell, Migration from Vermont, 124-50.
9. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 3, [4]; Bushman, Rough Stone Rolling, 18-19, 25-28. テーマ: ジョセフ・シニアとルーシー・マック・スミスの家族
10. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 3, [5]; Joseph Smith History, 1838-56, volume A-1, 131-32.
11. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 3, [2]; Joseph Smith History, 1838-56, volume A-1, 131.
12. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 3, [5] - [6]; Lucy Mack Smith, History, 1845, 67; Joseph Smith History, 1838-56, volume A-1, 132. テーマ: ルーシー・マック・スミス
13. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 3, [6] - [7].
14. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 3, [7]; Tucker, Origin, Rise, and Progress of Mormonism, 12. テーマ: ジョセフ・シニアとルーシー・マック・スミスの家族
15. Cook, Palmyra and Vicinity, 247-61. テーマ: パルマイラとマンチェスター; ジョセフ・スミスの時代のキリスト教の教会
16. Joseph Smith History, circa Summer 1832, 1-2, in JSP, H1:11-12.
17. Joseph Smith — History 1:5-6; Joseph Smith History, 1838-56, volume A-1, [1]-2, in JSP, H1:208-10 (draft 2). テーマ: ジョセフ・スミスの時代の宗教的信条
18. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 2, [1] - [6]; "Records of the Session of the Presbyterian Church in Palmyra," Mar. 10, 1830.
19. Asael Smith to "My Dear Selfs," Apr. 10, 1799, Asael Smith, Letter and Genealogy Record, 1799, circa 1817-46, Church History Library.
20. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, miscellany, [5]; Anderson, Joseph Smith's New England Heritage, 161-62.
21. Joseph Smith — History 1:8-10; Joseph Smith History, 1838-56, volume A-1, 2, in JSP, H1:208-10 (draft 2). テーマ: ジョセフ・スミスの時代の宗教的信条
22. Lucy Mack Smith, History, 1844-45, book 3, [8] - [10]; Joseph Smith History, circa Summer 1832, 1, in JSP, H1:11. テーマ: 聖なる森とスミス一家の農場
23. テーマ: 覚醒と信仰復興
24. 使徒 10 : 34 - 35; Joseph Smith History, circa Summer 1832, 2, in JSP, H1:12
25. Neibaur, Journal, May 24, 1844, available at josephsmithpapers.org; ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 10; Joseph Smith, "Church History," Times and Seasons, Mar. 1, 1842, 3:706, in JSP, H1:494
26. Joseph Smith, Journal, Nov. 9-11, 1835, in JSP, J1:87; ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 8 - 9; Joseph Smith History, 1838-56, volume A-1, 2, in JSP, H1:210 (draft 2)
27. "Wm. B. Smith's Last Statement," Zion's Ensign, Jan. 13, 1894, 6; ヤコブの手紙 1 : 5
28. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 11 - 14; Joseph Smith History, 1838-56, volume A-1, 2-3, in JSP, H1:210-12 (draft 2); ヤコブの手紙 1 : 6



フェインガは木彫職人として、妻、3人の子供、そしてほかに養育している子供3人の生活を支えています。楽なことばかりではありませんが、神を第一とすることで、生活に不自由することはありませんでした。

写真撮影、クリスティーナ・スミス

フェインガ・ファングナ

トンガ、トンガタブ

妻アナウと結婚したばかりのころ、わたしは小物を彫っては市場に持って行き、売っていました。お金になる日もありましたし、何も売れない日もありました。

わたしは祝福師の祝福で、手を使って働くとき神が祝福してくださることや、才能を使って人々を助けるだろうということが約束されています。約束は成就しつつあります。

わたしたちは多くの形で祝福されています。親族はわたしたちを裕福だと思っているようですが、そうではありません。ただ、神を第一とすることで、必要なものはすべて手に入ります。

さらに知る
フェインガの信仰の軌跡について、さらに詳しくは liahona.lds.org をご覧ください。

信仰に関するそのほかの記事は、LDS.orgのメディアライブラリーでご覧になれます。

教会の自立支援サービスを通してさらに自立する方法について、詳しくは ldschurch.jp/srs?lang=jpn-jp をご覧ください。



その夜起きたことは偶然ではないと彼に話しました。わたしは促しを受けていたからです。

最初の促しに従いました

ある日曜日、教会から帰宅した後、午後のほとんどを昼寝をして過ごしました。

目が覚めたときは暗くなっていました。祈りによってその週の計画を立て始め、主に最もよく仕えるにはどうしたらよいか尋ねました。すると、ホームティーチングに行った方がよいと感じました。すでに夜の8時になっていたのに、火曜日に行こうと自分に言い聞かせましたが、その夜に行った方がよいという気持ちが増すようになりました。

わたしがペルーのリマにある宣教師訓練センターで講師として教えていたときに、十二使徒定員会のロナルド・A・ラズバンド長老が語った次の勧告を思い出しました。「最初の促しに従いなさい。」わたしはすぐにホームティーチングの同僚に電話をかけましたが、彼は応答しませんでした。それでも行く

ことにしました。

家を出ると、ワードの若い祭司が通りを歩いているのを見かけました。彼に近寄って一緒に行ってくれるか尋ねてみると、彼は同意してくれました。1軒目に行くと、そこに住む兄弟がドアを開けてくれました。わたしは彼に会いに来る必要があると感じたと伝えました。その兄弟はほほえみ、明日手術を受けることになっているので、祝福をしてもらえたらうれしいと言いました。祝福を授け、わたしたちは次の家へと向かいました。

次の家族の家に到着したときには午後8時40分になっていました。とても遅い時間だったので、訪問先の家族は驚きました。彼らの家に入ると、父親の具合が悪いことに気づきました。わたしは祝福をしましょうかと申し出ました。

わたしたちが帰宅したとき、この若い同僚とモロナイ書第7章13節を読みました。「善を行い、神を愛し、神に仕えるように誘い、促すものはすべて、神の靈感を受けているのである。」

その夜起きたことは偶然ではないと彼に話しました。わたしは促しを受けていたからです。すると、彼はそれを信じると言いました。なぜなら、わたしに声をかけられる前に、彼は御霊を認識する方法を知ることができるように祈っていたからです。

ホームティーチングに行きなさいという促しは、訪問先の家族と若い祭司のどちらのためだったのか分かりませんが、耳を傾けたことに感謝しています。御霊の最初の促しに従うことで大きな祝福がもたらされることを知っています。■

ケニー・キスピチュバク（ペルー、リマ）

だれもが友を必要としています

ある日、わたしはある明確な決意を胸に、教会の玄関に近づきました。「今日、教会で友達を見つけられなかったら、もう二度と来ない」と思っていたのです。わたしは以前何度か友達と一緒に教会に行っていたことがありましたが、求道者として一人で、しかも自分のために出席するのは初めてでした。教会に入る必要があると感じていましたが、不安や心配を幾つか抱えていました。

教会の中に入ると、ヤングアダルトの兄弟が満面の笑みと心のこもった握手をもってわたしを歓迎してくれました。彼はデーン・マッカートニーですと自己紹介をしてくれました。以前にデーンを見かけたことがありましたが、それは彼がわたしの所属している大学のフットボールチームの入部テストを受けに来たときでした。教会の集会の間、一緒に座ろうとデーンが誘ってくれたおかげで、わたしの不安は消えました。さらに、教会の後、デーンの両親の家での夕食に誘ってくれました。その日は一度も孤独を味わうことがありませんでした。デーンと彼の家族はわたしに手を差し伸べ、多くの疑問の答えを見つけるのを助けてくれました。数週間後、わたしは教会に入りました。

あの日、デーンが親切な態度を示してくれただけだったら、わたしは聖餐会せいさんの後教会を出て、二度と行かなくなっていたと思います。頑張ったけどだめだった、教会は自分に合わなかったと考えたことでしょう。親切であることは確かに大切ですが、友達になることは単に優しく接する以上のことです。マッカートニー家の愛と支えはわたしの改宗において重要でした。

もう14年も前のことです。その後、わたしは専任宣教師として伝道し、神殿で結婚し、5人のすばらしい子供たちが生まれました。ビショップやステーク会長として奉仕もしました。孤独を感じ、教会に友達がいなかったために教会に行くのをやめてしまった会員に助言をしてきましたが、彼らのことを考えると、胸が痛みます。マッカートニー

デーンは、友達になることは優しく接する以上のことであると教えてくれました。

家がわたしにしてくれたように、だれかが彼らに手を差し伸べてくれていればと思います。

あの日、デーンがわたしの友となってくれたことを天の御父に感謝します。わたしたち全員が教会の求道者や新しい会員、戻って来た会員の友となる勇気が持てますように。■

ティム・オーバートン (アメリカ合衆国, アリゾナ州)



慰めの祝福

父が末期がんであることが明らかになったとき、母は落胆してこう言いました。「奇跡は起きないようね。」それを聞いた瞬間、父の命が尽きることがあったとしても、家族が奇跡を経験するような気がしました。

一つの奇跡はこのように起こりました。ある朝、友人のベスがその日の予定は何か尋ねてきました。わたしは、午後父と病院で時間を過ごす予定だったけれど、子供たちを見てくれる人の都合が悪くなってしまったと答えました。ベスは親切にも、わたしが父とられるように、子供たちを見てくれると言ってくれました。また、わたしの家族のために夕食も持って来てくれるとも言い、わたしはとても感謝しました。

病院に到着すると、父は目を開けることも、食べることもできないほど弱っていました。ところが、間もなくすると劇的に体力が回復し、3時間以上もの間目を大きく開けて、一緒におしゃべりをしたり、何度か病院の中を歩き回ったりすることもできました。この間、見舞客はだれも来な

かったので、恵まれて父と二人っきりで過ごすことができました。

その日わたしたちはともに笑い、ともに涙を流し、父はこの世を去ることへの思いや、彼にとって何よりも大事なこと、すなわちイエス・キリストの福音について証^{あかし}をしてくれました。その午後、わたしの人生で、最も大切な思い出

の一つとなりました。父はその3日後に亡くなりました。

父の葬儀が終わって1週間が過ぎたころになって初めて、父と最後に言葉を交わしたのはベスが子供たちを見てくれたあの日の午後だったことに気づきました。わたしは頬^{ほお}を涙でぬらしながら、奉仕をしてくれたことへの感謝

ベスが祈っていた祝福をわたしが受けるように、神がベスを促してくださったことを知り、わたしは心を打たれました。



と、わたしにとってどれほど祝福だったかを書いた電子メールをベスに送りました。

ベスはこのような返事をくれました。「わたしは、神様が慰めと恵みの祝福を与えたいと思っておられることを知っているわ。わたしたちが辛い経験をしているときは特にそうよね。今回、あなたと家族に慰めがあるように祈ってきたのよ。」

ベスが祈っていた祝福をわたしが受けるように、神がベスを促してくださったことを知り、わたしは心を打たれました。わたしたちが人生で困難に遭っているとき、神が慰めという祝福を与えてくださることを知っています。■

サラ・ビーバー (カナダ、アルバータ州カルガリー)

わたしの宝はどこにあるでしょう

ある日、子供たちを学校に送り届けると、わたしはその日の残りをどう過ごすか考えていました。やるべきことはたくさんありましたが、病院の夜勤の日だったので、時間は限られていました。庭仕事をしたり、甥の誕生日に渡すキルトを作ったり、運動をしたりできるでしょう。そんなとき、ふとエズラ・タフト・ベンソン大管長 (1899 - 1994 年) の言葉を思い出しました。

「神を第一にすると、ほかのすべての事柄は正しい位置に落ち着くか、またはわたしたちの生活の中から消えていくかのどちらかです。」(『偉大な戒め——主を愛する』『聖徒の道』1988 年



聖典の横に、最近神殿に持って行った、夫の親族の名前がありました。

6月号、4参照)

「それなら、聖典でしょう!」とわたしは思いました。わたしは机に向かい、前の日の続きのところから聖文学習をしました。

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

天に、宝をたくわえなさい。……

あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ 6:19 - 21)

「わたしの宝はどこにあるだろう」とわたしは思いました。聖典の横に、最近神殿に持って行った夫の親族の名前がありました。夫の両親は家族で最初の教会員です。わたしは過去2年間、亡くなった義理の父の系図を調べていました。ファミリーサーチにアクセスして、儀式完了と表示されているか確認

することにしました。

義父の家系の神殿アイコンを見ると、驚いたことに、わたしが結び固めの儀式のために準備した幾つかの名前が未完了になっていました。カードを置き忘れたために、結び固めがまだ行われていなかったのです。名前をもう一度印刷し終わるとすぐに、このような思いが心に浮かびました。「この後は、ほかのことをしてもいいですよ。」

主を第一にしたことで、わたしは平安を感じました。最も大切なことを優先できるよう、主が助けてくださったのです。永遠の世で家族とともにいられることこそ、間違いなくわたしにとって一番の宝です。神を第一にするなら、ほかのすべてのことはわたしやほかの人々の霊的な益となるように働くことを知っています。■

アシュリー・コーネル (アメリカ合衆国、オクラホマ州)

「主はわたしたちを救ってくださいる」

リード・建岡

2011年3月、日本を襲った地震はマグニチュード9.0を記録する、観測史上最も強い地震の一つでした。そのとき、わたしは震源に最も近い日本仙台伝道部の伝道部会長として奉仕していました。地震とそれに次ぐ津波で、1万6,000人以上の人が亡くなり、何十万という家や建物が崩壊しました。

広範囲に及ぶ被害だったにもかかわらず、一人の宣教師も失われることはありませんでした。その後の数日から数週間の間、わたしは一緒に奉仕していた宣教師たちの生活に奇跡が起きるのを目にしました。地震の前後、愛にあふれる御父は御自身の宣教師を救おうと、一連の出来事を行われました。

守られた場所へ導かれる

伝道部の郡山こおりやまゾーンの指導者集会は、いつも木曜日に行われていました。しかしこのとき、集会は2011年3月11日金曜日、つまり地震の日に予定さ

れていました。指導者集会は通常、ゾーンリーダーとディストリクトリーダーだけが出席していました。このときは、ゾーンのすべての宣教師が指導者集회에招待されていたのです。これは、地震の日、地震と津波で破壊された原子力発電所の最も近くに住んでいた日本仙台伝道部の宣教師たちが、郡山の礼拝堂の指導者集會に何事もなく出席していて、自分たちのアパートから遠く離れた所にいたということです。主は安全な地へ彼らを移動させられたのです。

指導者集會の宣教師だけが、地震が襲う前に安全な場所へと導かれたわけではありません。宣教師は早い段階で主に頼り、御みたま霊の導きに従うことを学びます。地震が襲ったとき、リーダーに指示を仰ぐ電話をする時間はありませんでした。別の宣教師は、御霊に従って天の御父が彼らのために備えてくださった守られた場所へ導かれたおかげで生き延びました。

地震の後、多くの宣教師が避難所へ行きました。幾つかのゾーンの宣教

恐ろしい破壊の
さなかであって、
主は御自分の
宣教師たちを
見守られました。

師たちは、本能的に礼拝堂に移動しました。そこは比較的被害が少なく、聖霊からの平安をさらに強く感じられる場所でした。幸運にもアパートに残ることができた数人の宣教師は、暖房、水、電気、食料がありませんでしたが、皆無事でした。

バリケードに導かれて

当初、原子力発電所の被害を知らなかったため、わたしは地震の後すぐ



写真：アサヒカメラ、アサヒカメラ、アサヒカメラ



に、指導者集会にいた宣教師たちをアパートへ帰そうとしました。しかし、主はその道を塞がれました。バスも電車も走っていなかったのです。天の御父は、引き続き宣教師たちを安全な郡山に留められました。

わたしは震源地近くの伝道本部に
いる必要があると思っていました。しかし、被害を受けた道路の渋滞の中を8時間かけて運転していくと、また道が塞がれていることが分かりました。結局、郡山に残ることで、わたしたちは別の宣教師たちの避難を助けることができました。それは、主がわたしたちを見守っておられたことを示す一連の過程でした。

地震の後、ガソリンがなくなりました。給油車が、破損した道路を移動するのに非常に時間がかかり、その結果、ガソリンがあったとしても3時間待ちとなりました。しかし主は、驚く

べき方法でわたしたちを備えさせてくださいました。例えば、姉妹たちや長老たちを本州の反対側の新潟に避難させようと、1回の給油で18時間運転しましたが、ガソリン計器はいつも「満タン」を示していました。新潟に近づくと、ガソリン計器はすぐさま「空」になりました。

非常に危険な旅

幸い、わたしたちの愛する御父は、深刻な破壊のさなかに秩序正しく避難できるよう導き続けられました。長距離の移動は危険でした。余震が続いていたからです。公共交通機関は止まり、水や電気の供給は遮断され、ガソリンや食料を買うことはほとんど不可能でした。建岡姉妹とわたしは、山間の地域にいる二人の長老と、本州の反対側の山の向こうにいる別の二人の長老のところに行けるのは、わたし

たちだけだとよく分かっていました。高速道路は閉鎖されていたので、この最後の移動は北へ山の裏道を片道5、6時間、それから山を越えて鶴岡へ2、3時間、そして無事に戻るのにさらに4時間を要しました。

3月16日の早朝に出発し、大杉長老と湯浅長老のアパートに午後5時に到着しました。最後の二人の長老に会うため、南に戻り、山頂を越え、鶴岡市に下っていかなければなりません。ガソリンは半分以下で、戻れないことは分かっていました。最後の二人の長老を乗せて移動を始めると、雪が降り始めました。間もなく、先の見えない吹雪の中を、時速24キロ以下で進むことしかできなくなりました。高速道路の車線が見えなかったからです。

午後7時半ようやく山頂に着いたとき、警察に止められました。警察

官は、雪崩^{なだれ}で道が塞がれ、山道は閉鎖されていると教えてくれました。これ以上先へ進めないということです。向きを変えて、雪崩^{うかい}を迂回する本州の反対側への別の道を使わなくてはなりません。雪崩を迂回するのに十分なガソリンはなく、鶴岡にいるレイ長老とルフェナクト長老のところへ行く方法はないように思えました。

奇跡的な旅

落胆して、警察に言われたとおりに引き返しました。わたしはワゴン車に乗っていた長老たちに、山形ワードの全会員に電話して、ガソリンを分けてくれる人はいないか見つけるように言いました。わたしたちは車を止めて、天の力を得られるように熱心に祈りました。別の奇跡を求めて祈り、再び主に頼りました。

宣教師たちは、すべての活発会員に電話しましたが、ガソリンを持っている人はいませんでした。ガソリンスタンドには供給するガソリンがなく、閉まっていました。すると、長老たちが、あまり活発でない会員の土橋兄弟に電話をするべきだと感じました。天の御父は再び、わたしたちに道を示してくださいました。土橋兄弟は、20リットルのガソリンを持っていました。しかし、この善良な兄弟に会うには、もう1時間北へ、つまり行こうとしている方向とは逆の方角へ移動しなければなりません。ガソリンをもらえるのはありがたかったのですが、雪崩を迂回するには十分ではありません。

わたしたちは、二人の長老にどうやって会うことができるか分からないまま、信仰をもって北へ移動しました。

新庄市に到着し、20リットルのガソリンをもらいました。間もなく、わたしたちが戻らないことを非常に心配する、顧問の吉田会長から電話をもらいました。会長はわたしたちがどこにいるかを聞き、新庄だと答えると、わたしたちが目的地から遠く離れていることに非常に驚きました。会長がわたしたちの帰路を助けることは、彼の能力の範囲を超えていました。

それから会長は地図を見て、声を詰まらせながら言いました。「新庄から鶴岡の長老たちのところへ行く、あまり知られていない山道があります。」主はわたしたちのために、まさしく雪崩を迂回して運転していく必要がある道を備えてくださいました。わたしたちに与えられたガソリンは、無事に雪崩を迂回して長老たちを迎えに行くのにちょうど必要な量でした。

地震の後、それぞれの宣教師と話して、彼らが地震と津波の前に安全な場所にどのように導かれたかを知り、とても感謝しました。避難センターの4階に登って津波から守られた二人の長老は、大きな危機にあって、安全に守られたことに感謝を表しました。

彼らは、ヒラマンの言葉が自分たちの状況を表していると感じたと言います。「そして、主なるわたしたちの神は、わたしたちを救うという保証を与えてくださいました。わたしたちの霊に平安を告げ、わたしたちに大いなる信仰を授け、また主によって解放されるという望みをわたしたちに抱かせてくださったのです。」(アルマ 58:11) ■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



御霊^{みたま}がわたしたちを導く

「神の神聖な計画の一環として、わたしたちは聖霊の賜物^{たまもの}を授かります。……人生の海原を航海するとき、聖霊が与えてくださる印象に従うことは、実に大切なことです。御霊は誘惑や危険を避けられるようわたしたちを助け、試練を乗り越えられるよう慰め、導いてくださいます。」

十二使徒定員会

クエンティン・L・クック長老

「プリストルの船のように—— 順風でも逆風でも、神殿にふさわしく」

『リアホナ』2015年11月号, 42

家族への 伝道

アンドレア・ゴメス・ラグネス

伝道の召しの手紙を開けたとき、メキシコ・ベラクルス伝道部に召されたと知って驚きました。わたしが生まれたとき、家族はベラクルスに住んでいて、ほとんどの親族がそこに住んでいるからです。親族の中で教会員はわたしたちだけでしたから、親族に福音を分かち合う機会が持てると考えると心が躍りました。

しかし、いざ行ってみると、親族の近くの地域で奉仕することはありませんでした。同僚に親族の住所を渡して、訪問してもらえるようにしました。

伝道が1年と3か月目に入ったとき、ひざに問題が起り始めました。痛みがひどく、時には耐えられないほどでした。医者に見せると、手術するしかないと診断されました。つまり、伝道期間が満了する前に帰還するということです。わたしは自分の状況が信じられませんでした。伝道は残すところたった3か月です。

わたしは、主に頼り、慰めと、できれば奇跡を求めることに決めました。祈

りの答えに、深い安らぎを感じました。伝道部会長の奥さんは、心のこもった母親のような愛で、身体の回復のために帰還するよう勧めてくれました。わたしは家族に、2週間で帰宅することを知らせる手紙を書きました。

そのあと、伝道部会長と面接をしました。会長はわたしに、母が連絡してきて、ある選択肢をくれたというのです。わたしがしばらく伝道活動を停止しなければならぬので、母がベラクルスに来ておじとおばの家でわたしの世話をすることができるということでした。会長は、できないことではないが許可が必要だと言いました。

後に許可が出されると分かったとき、大喜びしました。残って伝道を終えられるのです！わたしは感謝の祈りをささげました。

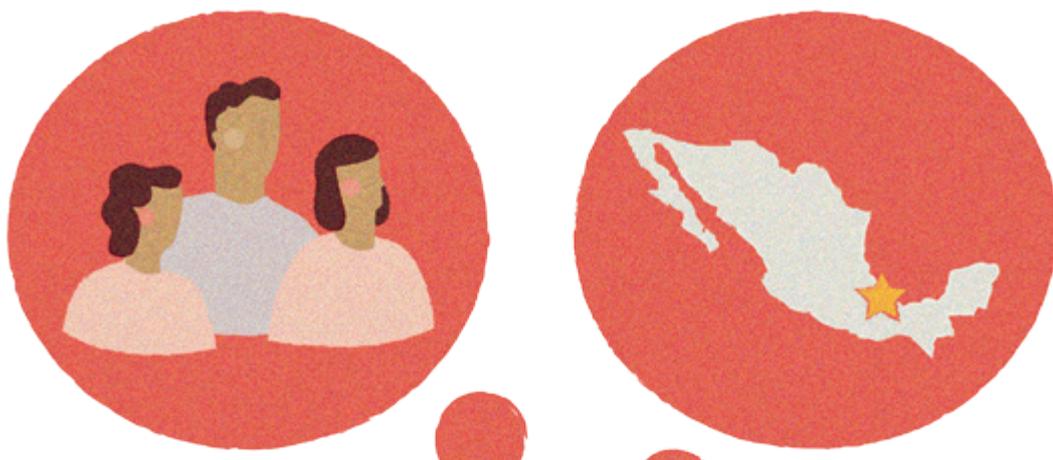
手術の日、伝道部会長はこう言いました。「ゴメス姉妹、主があなたをベラクルスに残してくださった理由を見つめる必要がありますよ。」その瞬間から、わたしは理由を探すことに集中しました。

同じ日、ベラクルスに到着した母は

**伝道部会長の質問が
心に残っていました。
なぜ主は
わたしを任地にとどめ、
伝道を全うさせて
くださったのでしょうか？**

こう言いました。「リタおばあちゃん（父方の祖母）が病院に会いに来てくれるわよ。先祖について聞く良い機会になるわ。」

「すばらしい考えだわ！」とわたしは思いました。早く親族に先祖について聞きたくてたまりませんでした。リタおばあちゃんは、宣教師であるとはどのような意味か聞きました。わたしは回復について教え、救いの計画について話しました。祖父、つまり彼女の夫は



数年前に亡くなっていたからです。すると、わたしが望んでいた質問を彼女がしました。「愛する人にまた会えるの?」

この質問でわたしは喜びに満たされ、こう答えました。「もちろんよ!」彼女の目が輝きました。祖母にこの永遠の真理を分かち合えたのはすばらしいことでした。さらに質問を受けましたが、どれも救いの計画を中心としたものでした。今度は、わたしが家系図を埋めるために家族について質問をしました。祖母が救いの計画を理解できるように、御霊が働いていることが分かりました。

後で、ほかの親族を訪問したとき、母方の祖母と話し、さらに多くの家族の名前を見つけるために彼女から助けを得られました。わたしは訪問した人すべてに福音を分かち合うことができました。

神がなぜわたしを最初にベラクルスに行かせ、そして手術の後そこにとどまるようにされたかが分かりました。わたしは、家族歴史に深い愛を抱いて伝道地へ戻りました。母の優しい看護のおかげで、わたしは伝道を終えることができました。

父方の祖母はその翌年に亡くなり、わたしはとても悲しみました。一方で、1年後に彼女の神殿の儀式ができることに感謝し、楽しみにしていました。彼女の身代わりとしてバプテスマを受けたとき、喜びの涙を抑えることができませんでした。祖母はやっと、60年以上添い遂げた愛する人と一緒にいられるのです。

主がわたしたちの望みを御存じだと心から確信しています。神はわたしが家族を教え、贖い^{あがな}イエス・キリストによってもたらされた良い知らせを宣言するために、わたしをベラクルスにとどまらせてくださったのです。いつか、祖父母に会えると知っています。先祖の儀式を行うことはわたしたちの責任です。いつか神はこうおっしゃるでしょう。「祝福された者よ、わたしのもとに来なさい。わたしの父の住まいには、あなたのために用意された場所がある。」(エノス 1:27) ■
筆者はメキシコのチワワ在住です。







十二使徒定員会
M・ラッセル・
バラード長老

イエス・キリスト

わたしたちの平安の源

キリストの光に
従うことによってのみ、
悩める人に平安は訪れるのです。

主 は一日中教え導かれた後
で、弟子たちに、ガリラヤの
海の向こう岸に渡ろうと提
案されました。

その晩彼らが舟に乗っていると、
「激しい突風が^{おこ}り、波が舟の中に打
ち込んできて、舟に満ちそうになった。

ところがイエス自身は、舳^{しく}の方でま
くらをして、眠っておられた。そこで、
弟子たちはイエスをおこして、『先生、
わたしたちもおぼれ死んでも、おかま
いにならないのですか』と言った。

イエスは起きあがって風をしかり、

海にむかって、『静まれ、黙れ』と言われると、風はやんで、大なぎになった。』（マルコ4：37－39）

風、雨、海といった自然の力が主の穏やかな命令に従う様子を見たとき、弟子たちが何を考えていたか、皆さんは想像できるでしょうか。聖なる使徒職に召されて間もないものの、彼らは主を知り、主を愛し、主を信じていました。主に従うため、仕事も家族も残してきました。比較的短い期間に、主の驚くべき教えを聞き、力強い奇跡を見ていました。それでもこの奇跡は理解を超えていました。彼らの表情にそれがはっきりと表れていたに違い

イエスが約束された

永遠の平安は内なるものであり、
信仰によって生じ、
証によって確立し、
愛によって養われます。

ありません。

「イエスは彼らに言われた、『なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。』

彼らは恐れおののいて、互^{たがい}に言った、『いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは。』（マルコ4：40－41）

心が乱れ、時に恐れを抱くとき、無限の、永遠の平安を与えるという救い

主の約束は、特別な力をもって胸に響きます。それはまさに、遠い昔のあの嵐の晩、ガリラヤの海で押し寄せる波を静められた救い主の力が、ともにいた人々に深い影響を及ぼしたことに相当します。

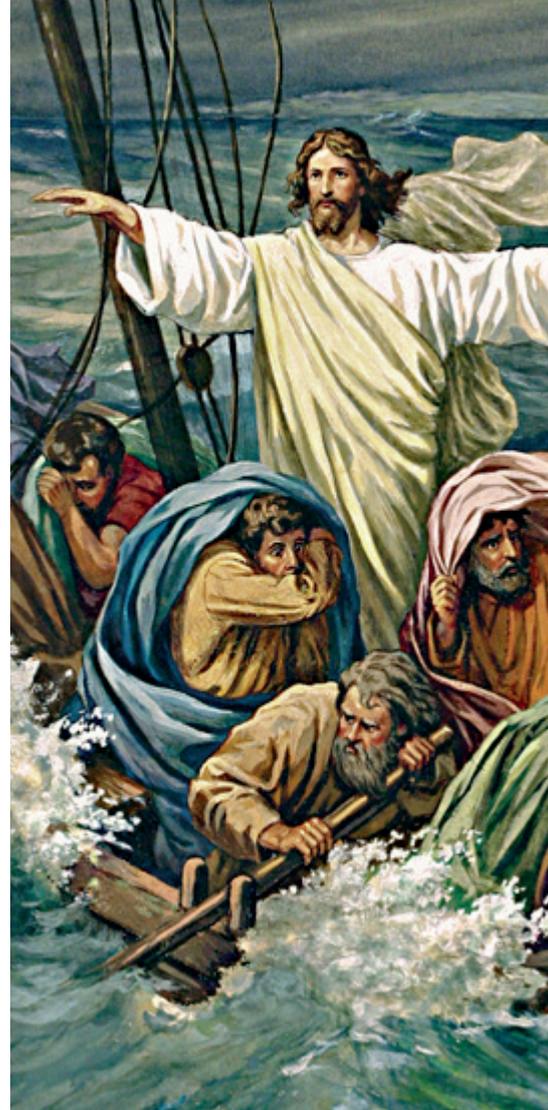
内なる平安を見いだす

救い主が現世で教えられた時代と同様、この時代にも、主の驚嘆すべき力のしるしとして、この世的な平和と繁栄を求める人々がいます。人は時々、イエスの約束された永遠の平安が内なるものであり、信仰によって生じ、証^{あかし}によって確立し、愛によって養

われ、従順と悔い改めを継続することによって表されることを理解できません。主の約束された平安は心と思いに影響を及ぼす霊の平安なのです。この内なる平安をほんとうに理解し、感じると、世俗的な不一致や争

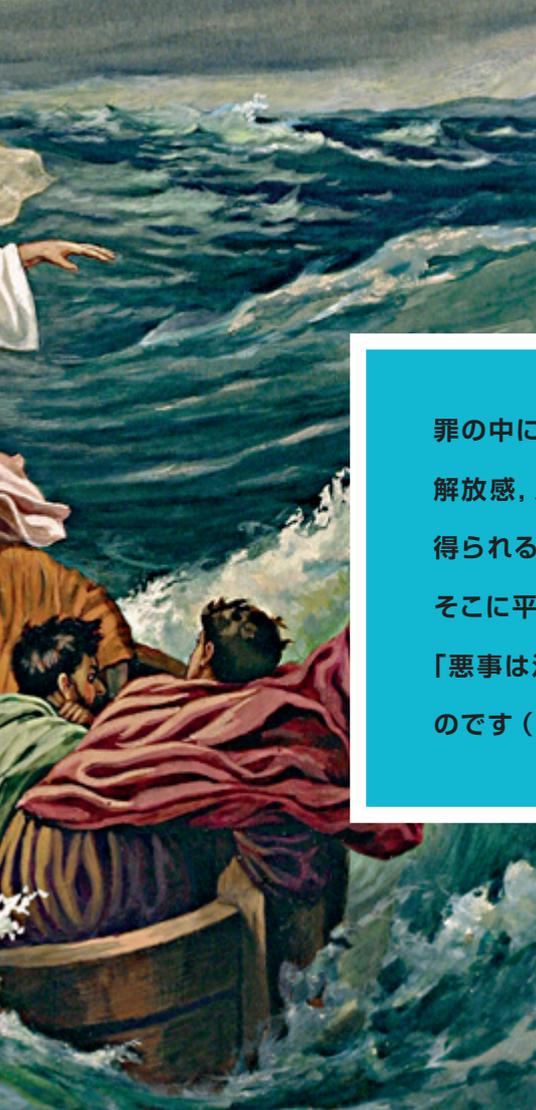
いに対する恐れはなくなります。そして、ほんとうに大切な事柄に関するかぎり、すべてはよしと心の中で言えるのです。

罪の中に平安はありません。解放感、人気、名声、そして繁栄さえ得られるかもしれませんが、そこに平安はありません。「悪事は決して幸福を生じたことがない」のです（アルマ41：10）。啓示された真理と調和しない生



き方をして、平安を得られるはずがありません。悪意や争いの中に平安はありません。低俗な思い、性的不道徳、放縦の中に、平安はありません。麻薬、アルコール、ポルノグラフィーに浸る人に、平安はありません。精神的、肉体的、性的を問わず、いかなる虐待行為を行う人にも、平安はありません。虐待を行う人は、心からへりくだってキリストのもとに来て、完全に悔い改めて救^{ゆる}しを求めるまで、精神的、霊的不安に苦しみ続けることでしょう。

時にだれもが「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」を切望するとわたしは思います（ピリピ4：7）。混乱した心^{こころ}を癒すこの平安は、



罪の中に平安はありません。

解放感、人気、名声、そして繁栄さえ

得られるかもしれませんが、

そこに平安はありません。

「悪事は決して幸福を生じたことがない」

のです (アルマ 41 : 10)。

貴重な真理を悟り、福音の原則を理解し実践すると、大いなる平安が天の御父の子らの心と霊に滴ります。救い主はジョセフ・スミスを通してこう語られました。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約 19 : 23)

わたしは皆さんに証でできることに感謝します。イエスはキリストであり、神の御子であります。イエスを信じ、信頼して、従うなら、すべての人が福音の与えてくれる快い平安を見いだすことができます。■

2002年4月の総大会説教より。

混乱のない状態を約束されたのでしょうか。歴史を見れば、そうでないことは明白です。最初に召された使徒たちは、その後の生涯を通じてひどい試練や迫害に遭いました。主が先ほどの約束に次のように付け加えられたのは恐らくそのためだと思われます。「わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14 : 27)

さらにこう続きます。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16 : 33, 強調付加)

心の底から感じる真の平安は、主イエス・キリストを信じる信仰によってしか得られません。この

キリストの光に従うときにのみ得られます。キリストの光は、「善悪をわきまえることができるように、すべての人に……与えられ」(モロナイ 7 : 16), 罪を悔い改め、赦しを求めるように促します。

「わたしは平安をあなたがたに残して行く」

栄えある、しかし壮絶な贖いの業が始まる数時間前、主イエス・キリストは使徒たちに重要な約束をされました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。」(ヨハネ 14 : 27)

主は愛する弟子たちに、この世が知る平安、つまり安全で平穏で、争いや

時にだれもが

「人知ではとうてい測り知ることのできない

神の平安」を切望すると

わたしは思います

(ピリピ 4 : 7)。

この世の平安と

キリストにあって得る平安

イエス・キリストは、苦難や試練の時にさえ、永遠に続く平安を与えてくださいます。

サラ・ハンソン

社 会的、政治的、宗教的な混乱のある世の中で、平安を得るために必要なことは何でしょうか。良い友人、愛する家族、それとも安全や安心でしょうか。わたしたちはこのような条件を満たさなければ、平安をほんとうには感じられないと考えることがあります。しかし、人生は決して100パーセント完璧に

なることはありませんし、簡単になることもありません。では、試練に向き合いながら、同時に平安を感じるにはどうすればよいのでしょうか。

この世は、平安は不一致がまったくないときにだけ感じられると教えます。しかし、それは真実ではありません。イエス・キリストは、その福音を通して世が与える平安に勝る、内なる平安を

与えてくださいます。信仰をもって主に目を向けるなら、どのような状況にあっても平安を感じることができます。

救い主はこう言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。」(ヨハネ14:27、強調付加) 世が与える平安と、イエス・

世における平安

1. 平安はすぐに与えられるもので、待つ必要はありません。

2. 困難な時に、平安は見いだせません。

3. 平安は、争いが無いことです。

4. 平安は、自分の生きたいように生きることで得られます。

5. 自分の欠点や弱点を認めることで平安は得られません。

6. 平安は、自分の必要に焦点を当てるときにのみ得られます。

7. 平安は、ほかの人に認めてもらうことで得られます。

8. 自分独自の平安を得られるようにするべきです。



キリストにあって得られる平安

1. 平安を得るのに待たなければならないことがあります。「諦め〔ないください。〕…… 神を信頼して、祝福が来ることを信じ〔てください。〕」¹

2. 試練のただ中であっても平安を感じることができます。

3. どのような状況でも、平安を見いだすことができます。

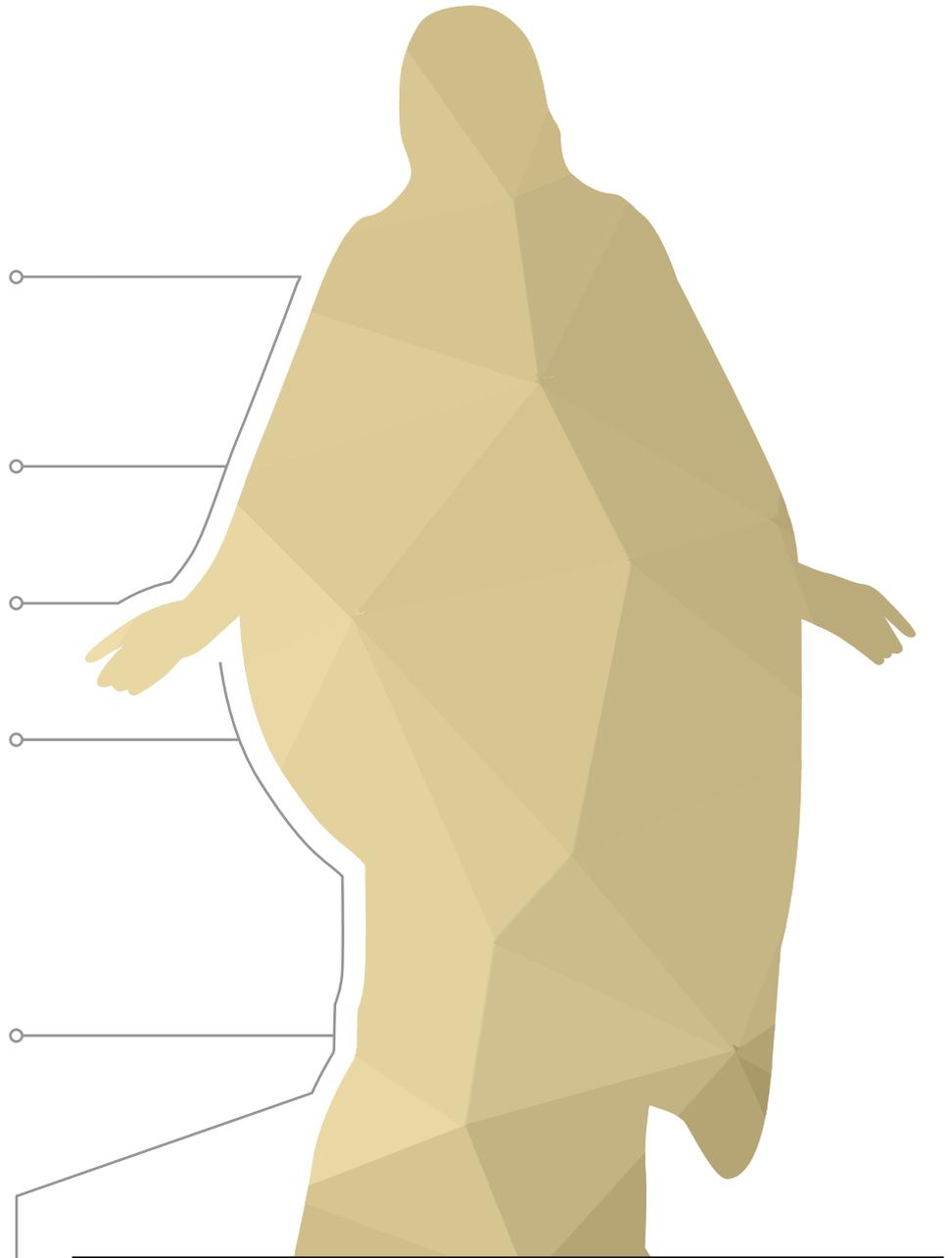
4. 福音に沿った生活をし、戒めに従うことで、平安が得られます。

5. 心から悔い改めることで、平安がもたらされます。「悔い改めという言葉の持つほんとうの美しさは、過去の問題、過去の習慣、過去の悲しみ、過去の罪と決別できるという約束にあります。福音の語彙の中で最も大きな希望と勇気、そして平安を与えてくれる言葉の一つです。」²

6. 平安は、ほかの人のために奉仕し、平和を作り出す人になることで得られます。

7. 平安は、イエス・キリストのよりよい弟子になると努めるときに得られます。

8. 「義にかな〔った報いとしての〕そのような平和は、救い主の使命と贖いの犠牲によって約束された賜物^{あがな}なのです。」³



キリストが与えられる平安の違いを挙げましょう。

わたしたちの生活の中心にイエス・キリストを置くなら、主が「わたしたちの霊に平安を告げ」くださるのを感じるでしょう（アルマ 58：11）。この世では大変な時があるでしょうが、どんな困難な状況にあっても頼れる御方がいることをわたしたちは知っているので祝福されています。救い主はこう言われました。「これらのことをあ

なたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」（ヨハネ 16：33）救い主の贖いにより、今日、そして永遠に平安を得ることができるのです。■

注

1. ジェフリー・R・ホランド「すでに現れた祝福の大祭司」『リアホナ』2000年1月号, 44
2. ジェフリー・R・ホランド「王国にかかわる平和をもたらす事柄」『聖徒の道』1997年1月号, 95
3. クエンティン・L・クック「個人の平安——義の報い」『リアホナ』2013年5月号, 33

心の中まで 禁止令を敷くことはできません

ブロッサム・ラリーノー



教会がガーナに初めて入って来たときに、政府

は教会やその慣習などについてよく把握していません

でした。それによって、様々なうわさが飛び交いました。その後10年にわたって、教会が大きくなるにつれ、うわさも拡大していきました。アメリカ合衆国がガーナ政府に対してスパイ行為を行うために男たちを送り込んでいるといううわさを耳にしました。さらに、教会に反する書籍が出回ると、政府はかなり敏感になりました。

凍結

1989年6月14日、ガーナ政府は教会の建物を封鎖し、宣教師たちを帰還させ、公式な教会の活動をすべて禁止しました。その期間をわたしたちは「凍結」と呼んでいます。しかし、まだ18歳の少女だったわたしにとっては、ある日突然、教会に行くことができなくなったと発表があったことしか分かりませんでした。会員が近づかないように、教会堂には見張りの兵士すらいる状態でした。

わたしたちは礼拝堂に集まることができなかったので、教会の指導者から、自宅で聖餐会を開いてもよいという許可を受けました。家族に神権者がいない場合は、神権者のいる家族のところに行くように勧められました。混乱もありましたが、とても特別な時でした。

わたしたちは証^{あかし}を分かち合い、お互いがより親密になりました。

どのように自分は モルモンだと言えるでしょうか？

凍結期間のあるとき、わたしは全寮制の学校に行くために家を離れなければなりませんでした。学校に着いてから、先生の一人がわたしが末日聖徒だと知って、わたしを目の敵にして教会の悪口を言いました。ほんとうにひどい言葉をたくさん言いました。よく不思議に思ったものです。「どうしてわたしばかり目の敵にするの？ 福音の教えを信じてはいるけど、わたしも普通の人なのよ。」

ある日、彼はわたしがもう自分のことをモルモンとは言えないだろうと聞いてきました。凍結のことを知らないはずがありません。わたしたちの文化では、大人に逆らうことはあり得ません。そして彼はわたしの先生であったため、反論できませんでした。しかしその瞬間、わたしは自分に証があることに気がつきました。どのようにしてそれらの言葉がわたしの口から出たのか分かりませんが、御^み霊^{たま}がともにあったので、わたしは立ち上がりこう言いました。「教会はわたしの心の中にあります。だれもわたしの心の中まで凍結することはできません。」



ガーナにおける凍結

1989年6月14日、ガーナ政府は末日聖徒イエス・キリスト教会の活動を禁止しました。すべての教会堂は閉鎖されましたが、6,000人の会員たちは、自宅で礼拝する許可を得ました。1990年11月29日、ガーナ政府は禁止令を解除し、教会のすべての活動を再開する許可を出しました。今日、ガーナには7万2,000人以上の会員がいて、宣教師訓練センターと神殿があります。

ガーナで政府が
末日聖徒の教会の集会を
禁止したとき、
ブロッサムは
若い女性でした。



それ以来、彼はわたしに構わなくなりました。

1990年11月、ガーナ政府は凍結を解除し、教会員たちは再び自由に礼拝してよいと宣言しました。学校内にはラジオもテレビもなかったので、あの先生がそれを知ってすぐにわたしを呼びに来てくれました。わたしを見るなり先生はこう言いました。「君の教会の禁止令が解除されたよ！また教会に行けるんだな。」

先生も喜んでくれました。

心の中まで凍結することはできません

凍結の間に教会にとどまって、ともに礼拝した人たちは、とても強いきずなで結ばれました。わたしたちはほんとうの兄弟姉妹となりました。今では、遠くに行ってしまった人たちもいますが、何かあればすぐに連絡が来ます。わたしたちは開拓者のように感じます。

自分が信じていることが真実だと知っていて、それに対しての証があるなら、試練があっても信仰が揺らぐことはない、人々に言いたいと思います。自分が何かが真実であることを知っていて、それを信じているのであれば、だれもそれを奪うことはできません。あなたの心の中にあるものまで凍結することはできないのです。■

筆者はアメリカ合衆国カリフォルニア州在住です。



七十人
マッシモ・デ・フェオ長老

神との 関係

をどのように深めるか

わたしは12歳になったとき、生活に福音をもっと取り入れるにはどうすればよいのか、真剣に考えるようになりました。

当時、イタリアの故郷タラントに住んでいました。わたしと兄が宣教師と出会う、教会員になってから数年しかたっていませんでしたが、もっと積極的になりたいと心から思うようになりました。聖餐のパスをしたいと感じるようになりました。毎週日曜日には、聖餐のパスを依頼されるようにお祈りして教会に向かったのを覚えています。

ある日曜日、支部会長がわたしを支部会長室に呼びました。彼は、「マッシモ、主はあなたに神権を受けて執事に聖任されるように願っておられますよ」と言いました。

そのときに聞いた「主が願っておられる」という言葉が心に響きました。それはだれか人から何かを依頼されているのではなく、主から個人的に責任を与えられているのだと感じました。支部会長がわたしを見たとき、主がわたしに働きかけておられるように感じました。

毎週日曜日に聖餐のパスを始めてから、自分の生活において神性の力を感じるようになりました。責任感や積極性を感じ、自分が主の業を行っていることが分かりました。主に仕えることで、主をより近く感じるようになりました。

指導者と責任を通して主の御手を感じるようになったこの経験は、主とのより深い個人的な関係を築く助けとなりました。そのような生活をして、神の存在を感じるようになるにつれ、福音をさらに生活に取り入れたいと思うようになりました。主とこのような関係を築くことは、若いうちにできる最も大切なことの一つです。



自分の指導者に主を見いだす

支部会長と会ったときに、責任を与えてくださったのは、支部会長だけでなく、主であったという霊的な印象が心に深く刻まれました。自分の指導者に主を見いだしたときに、わたしは主をより近く感じ、主との関係が深まりました。

青少年として、自分に召し方が与えられるときや教会のクラスに出ているときは、天の御父やイエス・キリストの言葉を聞いているということを理解すると、教会をもっと霊的な目で見ることができるようになります。主の業に参加したいと思うようになります。より深い霊的な経験をして、毎週日曜日には主をより近く感じるようになるでしょう。

儀式に主を見いだす

福音の儀式に参加することを通して、主の存在を認識することで、主との個人的な関係を築くこともできます。聖餐のような儀式に参加するときに、「神性の力〔が〕現れ〔る〕」ことをわたしたちは知っています（教義と聖約 84：20）。12、3歳であっても、聖餐のパスをしたときは、ほんとうに自分が主の御手の中で使われていると感じることができました。そのような儀式において、神の存在と力を感じ、生活において神性の力を感じました。儀式において主の御手を見いだすことによって、毎週そのような神聖な経験をすることは、主との個人的な関係を深める助けとなりました。

これは、聖餐のパスに限ったことではありません。毎週日曜日に聖餐を取ることもによって、神性の力を感じることができるのです。聖餐を取るときには、決して軽々しく受けたり、時々受けるようにしたり、それとなく受けたりしてはなりません。自ら望んで、決意し、備えをして聖餐を受けるべきです。それによって、自分の生活において神性の力を感じることができるでしょう。わたしたちが神との関係を深め、日々の生活における試練に備えるための強力で霊的な手段として、もっと聖餐を受ける機会を活用する必要があります。



深く個人的な関係

主と深く個人的な関係を築こうと、今決断してください。主を近くに感じれば感じるほど、主に仕えることが容易になります。

主はわたしたち一人一人に働きかけてくださいます。教会に集うときに、わたしたちは主の言葉を聞きます。聖餐を取るときには、主の神聖な儀式を執行しているのです。わたしたちは、指導者と儀式において、神の存在と力を見だし、神との関係を深める必要があります。■

心配事を 神に ゆだねる

わたしは自分の友人に深刻な問題があると分かったと、穏やかな気持ちでいられなくなりました。

ニノスカ・ナウラス

友人のフェルナンダ(仮名)が金曜日のクラスに欠席したときは、どうしたのかと思いました。「フェルは病気なの? 大丈夫かしら?」わたしは一日の授業が終わった後で、友人を見つけて聞きました。「フェルは病気じゃないわよ。精神科に行っていたんだわ」ともう一人の友人が答えました。わたしがその理由を聞くと、フェルナンダはうつ病に苦しんでいて、自傷行為があるということでした。しばらくして、彼女が治療のために入院したことを知り、それから数週間は彼女を見かけませんでした。

わたしたちは友人でしたが、彼女はそのようなことをわたしに打ち明けたことはありませんでした。そのことが恥ずかしくて、だれからも隠していた



ようでした。後になって、彼女は自分の惨めな姿を哀れに思われたくなかったからだと話してくれました。しかし、わたしは哀れに思ったりはしませんでした。感じたのは、ただ彼女を思いやる気持ちでした。

彼女のことに知った日、学校から帰宅して、ベッドの上で横になって頭を枕にうずめていました。感情的に疲れ果てていたのに、いろいろと心配で眠れませんでした。わたしの世界は急に大混乱に陥りました。自分が嵐あらしの真ただ中いるように感じて、様々な思いや感情が渦巻いていました。わたしは戸惑い、孤独で、何よりも助けられないことで無力に感じました。

どのように助けられるでしょうか？

彼女を助けるために何と言って、また何をしてあげられるでしょうか。彼女のために、友人として一緒にどんなサポートができるでしょうか。わたしは友人にも、わたし自身に対しても慰める方法を見つけることができませんでした。靈感を求めて祈りましたが、わたしの祈りはこたえられていないように感じました。

しかし、次の週に突然のひらめきがあったのです。早朝セミナーのクラスにいたときに、先生が最初の示現について話し、ジョセフ・スミスが自分の困難な状況や心配事について直接天の御父に尋ね求めたことを思い起

こさせてくれました。それから先生はこう言いました。「御父に尋ね求めるときに、御父は必ずこたえてくださいます。わたしたちは決して独りではありません。」

わたしは自分が悲しみのせいで、天の御父に対して心を塞いでしまっていたことに気がつきました。頻繁にお祈りはしていましたが、それは十分ではありませんでした。平安を受けるには恐れがあまりにも大きかったのです。わたしは神様が自分の今の気持ちを御存じで、わたしを助けることがおできになると知っていました。それでも、御父に対して心を開き、心から助けてくださると信頼する必要がありました。つまり信仰を働かせるということです。

わたしはそれを実行しました。お祈りと聖典を読むことを続けて、わたしの重荷を救い主にゆだねるように心掛けるにつれて、最終的に友人のうつ病が回復すると理解できるようになりました。わたしの身の回りの混乱状態は続いていましたが、穏やかで、バランスと調和の取れた気持ちを感じることができました。母はこう言って平安を求めるように励ましてくれました。「あなたの友達もきっとよくなるわ。だからあなたも大丈夫よ。福音から離れないで強くあれば、きっと解決するわ。」

友人をサポートする

フェルナンダがついに学校に戻って来たときに、わたしは安定したサポートを彼女にしてあげることができました。それは自分自身でイエス・キリストを通して平安を求め、それを見いだしたからです。よい聞き手となって、楽観的であるように、そして福音を伝えるように努めました。幸福の計画について説明したときや、試練があっても喜びを見いだせるように天の御父が望んでおられることを説明したときは、自信をもって伝えることができました。時間はかかるかもしれませんが、神のすべての子供たちにとってそれは可能なことです。

わたしは人生において、苦悩や悲しみを感じる経験が多くありましたが、福音のおかげで、自分がどこから来たのかをいつも覚えていることができました。自分が神の娘であり、神はわたしやフェルナンダのために計画を用意されていることを知っています。一人一人、異なった道を歩みますが、御父はわたしたちを愛しておられるので、すべての人の道がその人のためになります。それぞれの道と一つ一つの試練には目的があるのです。そのような試練において、平安を見いだすことができれば、ほかの人々とそれを分かち合うことができます。■

筆者はチリのマウレ州在住です。



うつ病 ———— どのように接すればよいでしょうか

うつ病で苦しんでいる友人がいるなら、彼らの話を聞くようによく努めて、彼らの試練においてできるかぎりのサポートをしてあげてください。彼らはあなたの愛を必要としています。両親に助言を求めてください。その友人の両親がそのことを知っているか確認して（友人が両親に知られたくないと思っていてもです）、自分がどう助けられるか、彼らの助言を求めてください。もし状況が深刻（自傷行為など）であって、その友人の両親も知っているのに何も対処していない場合は、学校の先生やカウンセラー、また教会の指導者に伝えてください。

永遠の命とは、

唯一の、まことの神
でいますあなたと、また、
あなたがつかわされた
イエス・キリストとを

知ることであります。

ヨハネ 17 : 3

8

1 ニーファイ 3:7

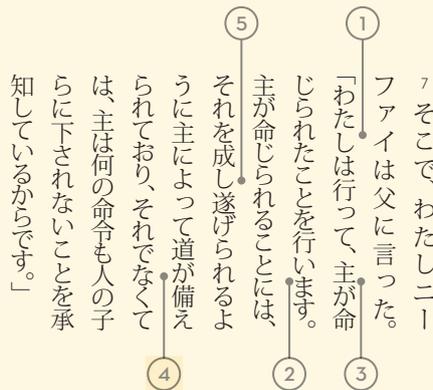
主は行って行うようにニーファイに命じられた



1 わたしは行きます
「学び、悔い改めて、主が求められることを行って行きたいという思いをもって耳を傾けるとき、皆さんは主に対する信頼を示していることとなります。神を信頼して、この大会のあらゆる説教、歌、祈りの中に主のメッセージを求めて耳を傾けるならば、それを見いだせるでしょう。そして、行って主が望んでおられることを行うならば、神を信頼する力は強くなり、やがて主が自分を信頼してくださっていることを知って感謝の念に満たされるでしょう。」

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長「神を信頼し、行って行う」
『リアホナ』2010年11月号、73 参照

2 行います
「わたしは、……自分の人生で、次の規則に従うようにしています。『主が命じられるなら、行いなさい。』」
『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』161



3 主は命じられた
「主の戒めはすべて、わたしたちの進歩成長のために与えられているのです。」

十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老（1932 - 2017 年）
「もし命に入りたいと思うなら、戒めを守りなさい」
『聖徒の道』1996年7月号、43

4 主は道を備えてくださる
旧約聖書の中で、道を備えるというのは、善良で分かりやすい道確立すること（申命 19:3 参照）、または障害物を取り除いて道をまっすぐにする（イザヤ 40:3 参照）を意味しています。

主が戒めを与えられるときに主を信頼して喜んで従うなら、主はいつも道を備えてくださいます。しかし、ニーファイのように、まず信仰をもって行動しなければなりません。そうすることで、道が示されるのです。なぜなら、主は「人の子らの信仰に応じて力をもって働かれる」からです（モロナイ 10:7）。

5 成し遂げる
「もし……信仰があれば……あなたがたにできないことは何もない。」
マタイ 17:20

編集者注——このページの目的はマスター教義聖句の完全な解釈を示すことではありません。このページを参考にして各自で学習を深めてください。

わたしの友達に、 ほかの人々について 思いやりのないことや不適切なことを 言わないように頼みたいのですが、 どうしたらよいのでしょうか。

う わさ話、思いやりのない言葉、低俗な言葉——
皆さんも、学校の廊下を歩いているときに耳にした
ことがあるでしょう。あなたの友達がそんな話をす
る人だということもあるでしょう。そんなとき、皆さ
んはどう受け答えしたらいいか分からずどぎまぎし
たり、気まずく感じたりすることがあるかもしれませんが、良い模範
を示すことで、状況を変えることができます。

人に反対する立場を取るの楽しいことではありませんが、「不
敬で、低俗な、あるいは軽率な言葉遣いやジェスチャーは、みだら
な冗談と同様、主と周囲の人々を傷つけ[る]」ことを忘れないでく
ださい。¹ 冗談で言ったとしても、思いやりのない言葉は人を傷つけ
るものです。

あなたの友達がほかの人々について不適切なことや思いやりの
ないことを言った場合、「ほかの言葉を使うように優しく励ましま
しょう。それでもやめない場合には、丁寧にその場を立ち去るか、
話題を変えましょう。」² 人は皆神の子供なので、そのように尊重さ
れるべきだと信じていることを説明しましょう。人を批判し、やり
込めて、その人の敵になるよりも、すべての人を支える友達になるこ
とを選びましょう。あなたの立派な模範は、あなたの友達にとって
良い手本となるでしょう。

『若人の強さのために』では、「清い知性ある言葉は聡明で健全
な心の持ち主であることの証明です」と教えています。³ あなたの
言葉があなたの信念を表すようにすることで、御霊が留まり、困難
な状況の中において導きを与えてくださるでしょう。

そして自信を持ってください。真の友は、人の良い特質を引き出
すような汚れのない、人を高める言葉を使うというあなたの決意を
尊重してくれるでしょう。

前向きになれるように助け合う



わたしの友達とわたし
はブレスレットを着け
ています。どちらかが
だれかについて何かひ
どいことを言ったら、
言った人のブレスレットを軽くはじくこ
とにしています。この方法で、思いと
言葉を前向きに保つことをいつも思い
出しています。

キャロライン・J, 18歳
(アメリカ合衆国, ユタ州)



神の助けを願い求める

祈りは、ほかの人々に
どのように話したらよ
いかを知る力を神から
受けられるように助け
てくれます。まず、友達に何と言った
らよいか教えてくださいに主にお
願いします。同時に、友達がすべての
人を天の御父の愛する子供として見る
ことの大切さを理解できるように、主
に助けを願い求めます。人の一番良
いところを見て、悪いことを言わない
ことの大切さを強調しましょう。

ビクトリア・ケルシア, 19歳
(ブラジル, ピアウイー州)

愛で違いを受け入れる

わたしの友達は、人にはそれぞれ異
なった長所があり、それが互いの利益
となることを知る必要があります。わ
たしたちは、不完全な人であっても、い
つもその人にもっと愛を持つようにし
なければなりません。また、人には救
い主の贖いの犠牲によって変わる力が
あることも信じなければなりません。

エステル・M, 19歳
(コンゴ民主共和国, ムブジマイ州)

率直に

友達に優しくこう言えばいいと思います。「ちょっと、それやめない？ そうしてくれるとありがたいけど。」または「そんなふうには言わないでくれるかな。失礼だよ。」詰まるところ、二つの大いなる戒めの一つは、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛〔する〕」ことです（マタイ 22：39）。

クレイトン・P, 14歳
(アメリカ合衆国, アリゾナ州)

彼らの見方を変える

彼らがしていることは正しくないという、それと人を悲しませるのではなく幸せにするように努力する必要があります。ほかの人から思いやりのない言葉をかけられた本人だったらどう感じるかと聞いてみてもよいでしょう。別の観点から状況を見るように助けましょう。ほかの人々がもっと良くなれるように助けることにより、もっと頻繁に御霊を感じ、主があなたの義にかなった行いを祝福して下さることを感じるでしょう。

ダーレン・O, 15歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)



勇気を出しましょう

エステル, ジョセフ・ミス, エジプトのヨセフ, 聖典に登場するほかの多くの人物のように、あなたも友達がほかの人々について不適切なことを言うのを止める勇気をもつことができます。わたしも同じ状況を経験したことがあるのですが、勇気を出して、愛と理解を示しながら友達に話すことができました。最終的に、清くてふさわしい言葉を使うこ

とがいかに大切であるかを理解し、受け入れてもらえました。そんなとき、大きな助けになったのが、聖文を読み、祈ることに加えて、断食することでした。友達に話して、その心に触れる勇気を与えてくださるように、天の御父に祈り、願い求めてください。

パオラ・H, 17歳
(エルサルバドル, サンサルバドル)



模範となる

これを行うための最良の方法は、模範を示すことです。悪口を言われている人について、率先して良いことや前向きなことを言うようにしましょう。話の流れが急に変わること驚くでしょう。

イース長老, 24歳, (韓国ソウル南伝道部)

好ましくないということを説明する

そういう話し方をするので、どれほど良い経験や友達との交流を失っているか話しましょう。悪い言葉を使うと、ほかの人と距離ができて、思いが汚れてしまうので良くないと説明しましょう。さらに、悪い言葉を使うと、善



言葉には力があります

「言葉には驚くべき力があります。人を高めることも、破壊させることもできるのです。否定的な言葉に落ち込み、愛ある言葉に心が浮き立った経験は、だれの記憶にもあるのではないのでしょうか。人について、または、人に向かって善いことだけを言うように選ぶならば、周りの人は心が晴れ、力づけられます。そのような言葉は、人が救い主の道を歩めるよう助けるのです。」

ジョン・B・ビンガム
中央扶助協会会長
「わたしは福音の光を家庭にもたらしめます」
「リアホナ」2016年11月号, 7

い人たちに避けられるようになります。

エリサ・フェレイラ・S, 16歳
(ブラジル, ミナスジェライス州)

注

1. 『真理を守る —— 福音の参考資料』 172
2. 『真理を守る』 172
3. 『若人の強さのために』 (小冊子) 20

次回の質問

「わたしは同じ誘惑に長い間苦しんでいます。もどかしく感じています。どうしたらそれを乗り越えることができるでしょうか。」

あなたの意見と、希望する場合は高解像度の写真を、2018年3月15日必着で liahona.lds.org からお送りください（「投稿する」をクリックしてください）。電子メールの場合は liahona@ldschurch.org までお送りください。

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

「イエスさまの作られた教会です。神の子供として教え学ぶ」
『子供のかしゅう』48)

イーストンがドイツで初めて出た教会の集会が終わった
ところです。アメリカに住んでいたときに通っていた
教会とはすごちがうのかなと思いましたが、ほとんど同じ
でした。ただ、ここでは、イヤフォンをして、お話を英語に
通訳してくれるのを聞かなければなりません。

お父さんとお母さんは、後ろにすわっていた家族と話し

始めました。その家族には、イーストンと同じ年くらいの男
の子がいるようです。

「フィノット家族よ」とお母さんがイーストンに言いま
した。「ジャンマルコは学校であなと同じクラスよ。」

「やった！」イーストンはジャンマルコに笑いかけました。
ジャンマルコの名前は、英語の「ジョン」と「マーク」を足し
た名前のように聞こえました。「君はどこから来たの？」と
イーストンが聞くと、

教会のためにかたく立つ

トレーシー・カーターと
マリッサ・デニス

ほんとうにあったお話をもとに書
かれました。



ジャンマルコは、ほほえみ返して答えました。「ぼくたちはイタリア出身だよ。でも、家族で中国から引っこして来たばかりなんだ。」

「わあ、すごいね」とイーストン。「ぼく、中国に行ったことないよ。」

次の日、新しい学校に行ったとき、イーストンは少しきんちょうしていました。でも、教室の向こうでジャンマルコが手をふっているのを見て、少なくともちゃんと一人は友達がいってくれると思えました。イーストンのクラスには、世界中から来ている子供たちがいました。きっとこの学校が好きになるだろうと思いました。

「おはようございます。」先生がみんなに笑いかけました。「わたしは、アルバノ先生よ。まず、自分らしさがどういう意味か、教えてくれる人はいますか？」

女の子が手を挙げて「自分がどういう人で何をいちばん大切にしているかということですよ」と答えました。

「そのとおりね」とアルバノ先生。「じゃあ、おたがいに知り合いしましょう。みんなにとって、自分らしいってどんなことですか？ みんなが持っている自分らしさって何でしょう。」

「わたしはテレビゲームが好きです。」いちばん前の列の女の子が言いました。アルバノ先生はにっこりしてしゅみと黒板に書きました。「ほかにはどうかしら？」

ジャンマルコが手を挙げて答えました。「ぼくはイタリア出身です。」アルバノ先生はうなずいて国と書きました。

イーストンは言うことを考えようと思いました。「ぼくは教会に行きます」と後ろの席の男の子が言いました。

「それもいい答えね。」イーストンは、「そう言えばよかった」と思いました。

でもだれかが笑い、ほかのたくさんの子たちも笑いました。イーストンは、よく分からなくなり、ジャンマルコを見ました。ジャンマルコも、こまった顔をしていました。なぜみんな笑うのでしょうか。

イーストンは家に帰ると、お母さんに学校であったことを伝えました。

お母さんは悲しそうな顔をしました。「なぜ教会が大切かが分からない人もいるのよ。ばかげていると思うのね。」

イーストンは「そうなんだ？」と言いました。教会がばかげているとは全然思わなかったからです。

2、3週間後、アルバノ先生が生徒たちに、家族らしさについてお父さんかお母さんと一緒に発表するようにいま

した。「どんなプロジェクトにする？」夕飯のためにテーブルを用意しているとき、お母さんが聞きました。

イーストンはクラスのみんなが笑ったことについて考えました。「教会のことについて発表したいと思う」とイーストンが言いました。

お母さんにはにっこりしました。「それはいい考えね。」
「それから、ジャンマルコとフィノット姉妹にもいっしょに発表してもらえるかな。」

「すごくいいアイデアね。夕飯の後に電話してみるわ。」
次の日、ジャンマルコとフィノット姉妹が来てくれました。まず、4人で教会についていちばん大切だと思っていることについて話し合いました。お母さんが、出たアイデアを全部ノートに書いてくれました。それから、ポスター用のボードを見つけて、イエスや預言者や神殿の写真や絵を見つけてのりではりました。

ついに発表の時間がやってきました。イーストンはジャンマルコとお母さんたちと、クラスみんなの前に立ちました。イーストンは深く息をすいこむと、

「わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です」と言って発表を始めました。一人ずつ交替で教会について話しました。ジャンマルコは聖文について話しました。お母さんは預言者について話しました。フィノット姉妹は家庭の夕

べについて話しました。イーストンはバプテスマについて話しました。とってもいい経験になりました。

全部終わってからは、イーストンはとても良い気持ちになりました。笑う人はだれもいませんでした。むしろ、みんな気に入ってくれたようでした。イーストンは、とても大切なことをクラスのみんなに伝えられてうれしくなっていました。イーストンは自分が何者であるか知っていました。イーストンは神の子です。■

このお話を書いた人たちは、ドイツ、バーデン・ビュルテンベルク州とアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。

わたしは神の子です

わたしはイエス・キリストを信じています

わたしは家族の一員です



神の子供

「みなさんは、自分らしさをどのように見つけますか。まず、自分が神の子であることを覚えてください。」

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン会長、
“Identity, Priority, and Blessings,”
Ensign, Aug. 2001, 11

ひかり
光をかがやかせる

オーラ！
わたしの名前は
アリスです。

わたしは、感謝の気持ちを
表すことによって、
光をかがやかせようと
しています。

たまもの 賜物を わかち合う

きょうかい きかんし
教会機関誌マリッサ・ウィディソン
とのインタビューから



ブラジル サンパウロ神殿の前に立つ家族

さんびか 1. 賛美歌をひく

わたしは両親と姉と弟と
いっしょにブラジルに住
んでいます。お姉さんの
ジュリアとわたしは、
ワードのせいさん会で
ピアノをひきます。

しあわ きもち 幸せな気持ち

感謝を表すとき、主はせいれいを通して
わたしたちを幸せな気持ちにして
くださいます。

こうふく けいかく 幸福の計画

絵に色をぬり、天のお父様があなたの
ために立ててくださった幸福の計画
について学びましょう！ 切り取り、
絵のうらをはり合わせて、はしをホッ
チキスでとめて、冊子にしてもよいで
しょう。



わたしは生まれる前、れ
いとして天のお父様やお
母様と一緒に住んでいま
した。天のお父様はわた
しが学び、成長できるよう
に一つの計画を持って
いると話されました。わ
たしはほんとうにうれし
くなりました。

イエス・キリストは進んで、わたしの救い主となってくださいました。地上に来て、わたしに完全なほんをしめしてくださいました。わたしのつみの代価もしはらってくださいました。問題があるとき、どんな気持ちなのかをごぞんじで、わたしを助けてくださいます。わたしは、イエス様が大好きです。



わたしはこの美しい地球に生まれました。体をいただいたので
す。れいと体を一緒に働かせながら、いろいろなことを学んで
いきます。わたしは毎日、人に親切にすることでイエス様にした
がおうとしています。



わたしはバプテスマを受けることによって、イエス様にしたいがいます。わたしはいましめを守ると約束します。天のお父様は、せいいれいがわたしを助けると約束してくださいました。失敗したときは、くい改めて次にもっと上手にできるように努力しています。そうやって学んで、成長していきます。



今わたしは天のお父様とお母様、イエス・キリストから遠くはなれていますが、でも近くに感じるができます。いつでも天のお父様にいのることができます。聖文を読むことができます。いつか、神殿に行くことができれば、わたしのために立てられた神の計画についてもっと学ぶことができますでしょう。神殿は平安に満ちた、幸せな場所です。



死は、人生の一部でしかありません。死ぬとき、わたしの体は地上に残り、わたしのれいはれいかいに行きます。家族や友達と一緒にいられます。



いつかわたしの体とれいは、一つに合されます。そしてイエス様にまた会うのです。家族や天のお父様、お母様と永遠に暮らすことができます。わたしは、この幸福の計画にとっても感謝しています。





イエス・キリストは、たしかに神のひとり子であり、創造主であります。たしかにイエス・キリストは、世の光であり、つみと死からわたしたちを救う救い主であります。これが地上における最も大切な知識です。わたしがそうであったようにみなさんも自分でそのことを知ることができます。

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス長老

「イエスの教え」『リアホナ』2011年11月号、90 - 93 から



どりよく つづ
努力し続ける

「もしかれらがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしはかれらの弱さを強さに変えよう。」

(エテル 12:27)

わたしの両親は、わたしがおさないころ教会に入りました。わたしたち家族はオーストラリアの小さな支部に集ってました。母は教会でピアノをひいていましたが、母にひけたのは、ほんの数曲の賛美歌だけでした。わたしもピアノを習っていたので、7才のとき、支部会長から教会でひいてほしいとたのまれました。

ピアノをひくと間違え、その度に、よく泣いてました。とてもはずかしがり屋で、きんちょうしやすい子でした。でも、わたしは練習を続けました。上手に賛美歌がひけるようになりたかったのです。今はピアノをひくのが大好きです。すべての賛美歌をひくことができます。ニュージーランドで伝道したとき、そこでも小さな支部で働きました。ピアノをひける人がだれもいなかったの、わたしは1年間、オルガンとピアノをひきました。おそれを克服しようとしたこ

とはわたしにとって祝福でした。おかげで人々を祝福することができました。

おさないとき、話すことにも問題がありました。どもっていたのです。みんなの前であかしをするのは大変でした。話そうとしても、泣いてしまって話せないこともありました。助けてもらおうと神権の祝福を受けましたし、両親はいつもはげましてくれました。やがてわたしは、もっとはっきりと自信をもって話せるようになりました。

今でもきんちょうしますし、総大会で壇上に行って話すのはこわいことです。でも、そこには強いみたまがありました。はげましと平安を感じました。それはおどろくほどの経験でした。

みなさんがはずかしがり屋で、話すのが苦手だとしても、努力を続けてください。みなさんがどんなに話すのがむずかしいとしても、わたしたちはみなさんの話を聞く必要があります。あなたにしか話せないことで、たくさんの人々を祝福できるのです。■

イラスト/ダン・パー

たいかい 大会カード

ねん がつ そうたいかい だいす ことば
2017年10月の総大会から、大好きな言葉をいくつかしようかします!

しん こう
信仰は、
つねに
おそれに打ち勝つものです。



だいかんちょうかいだいいち こもん
— 大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

じゅうに しとていんかい
— 十二使徒定員会
ロナルド・A・ラズバンド長老

しゅ よろこ
主は喜んで
わたしたちと
ともにいて
くださいます。



ちゅうおうふたごかいちょうかいだいいち こもん
— 中央扶助協会会長会第一顧問
シャロン・ユーバンク

かみ
神はわたしたち
一人一人
のために
大切な業を
用意しておられます。



しちじゅうにん
— 七十人
ジョン・C・ピングリー・ジュニア長老

じぶん
自分の
ひかり
光をともして
いますか。



わたしたちのページ



家族といっしょに神殿に行く度に、まるで救い主がともにいてくださるかのよう
に、みたまをととても強く感じます。
わたしは神殿に行くのが大好きです。
アラナ・L, 8才 (ブラジル)

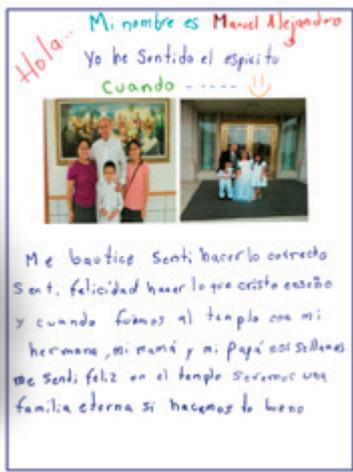


学校の友達に愛をしめし、そんけいを表す
とき、イエスにしたがうことができます。
ピアンカ・V, 7才 (コロンビア)



わたしたちは、いのりと同じようにモルモン書がいろいろな問題を乗り越えるのを助けてくれるのを知っています。弟はおいのりするのが大好きです。

ベンジャミン・M, 3才とホアキン・M, 8才 (チリ)



バプテスマを受けたとき、みたまを感じました。正しいことを選びたいという気持ちになりました。イエスが教えてくださったことを行うとき、幸せを感じました。お姉ちゃんとお母さんとお父さんと神殿に行って、結び固めを受けて、うれしかったです。正しいことをしていたら、永遠の家族になれます。

マヌエル・R, 9才 (エルサルバドル)

アダムとエバ

キム・ウェブ・リード

てんのお父様とイエスは
ちきゅうをそうぞうされました。
りくやうみ、たいようほしを
つくられました。
しょくぶつどうぶつをつくられました。
そして地球は
てんのお父様の子ども
すじゅんびができました。
てんのお父様がさいしょにちきゅう
おく送られるのはだれでしょう。



アダムとエバです。

てんのお父様はアダムとエバをエデンの園そのおに置おかれました。必要な食べ物ひつようたものはすべて、園で
そだ育そだっていました。働はたらかなくてよかったのです。病びようき気にもなりませんでした。



天のお父様はアダムとエバに、ある木になっている実を食べると、エデンの園から出て行かなければならなくなると言われました。サタンはエバにその実を食べるようにゆうわくし、エバはその実を食べました。アダムも食べました。

アダムとエバがエデンの園を出たのは、天のお父様の計画の一つでした。エデンの園を出た後、アダムとエバはいのり、くい改め、イエスへの信仰を持つようになりました。子供が生まれ、親になった二人は子供たちに福音を教えました。エデンの園の外の生活は大変でしたが、新しい大切な事柄を学びました。幸せでした。





わたしはアダムやエバとにしています。わたしは、^{まな}学び、^{せいちょう}成長し、^{てん}天の^{とうさま}お父様や
^{かあさま}お母様のように^{ちきゅう}地球に^く来ることを^{えら}選んだのです。■

色をぬりましょう

わたしは良い^よ選^えびをすることが出来ます

子
供





大管長会第二顧問
ディーター・F・
ウークトドルフ管長

福音はあらゆる真理を包含します

目の前にある葉はほんの小さな1枚、つまり膨大な知識という無限に広がる森の一部でしかないのです。

歴史は大切です。ですから、歴史から学んだ教訓を錨として確固とした自分を築くことで、人であることはどういう意味なのか、その最も秀でた部分を模倣することができますようになります。

小説家であった、故マイケル・クリッチトンは、次のように言ったとされています。「もし歴史を知らなければ、それは何も知らないということだ。自分が大きな木の一部だということを知らない1枚の葉と同じだ。」歴史は、ほかにも葉が存在することを教えてくれるだけでなく、人生には小枝や枝、幹や根も存在することも教えてくれます。そのためこうした教訓は大切です。

わたしたちが死すべき人として持っている弱点の一つは、わたしたちの「葉」はそこにあるものすべてだと考えることにあります。つまり、わたしたちの真理は完全に普遍的なものだと考えることにあります。古くからあるユダヤのことわざにも、「ワサビダイコ



ンに巣食う虫にとって、ワサビダイコンだけが世界だ」というものがあります。わたしがここで強調しておきたいことは、末日聖徒イエス・キリスト教会が大切にしている真理は、葉を超越して存在し、もちろんワサビダイコンをも超越しているということです。その真理は時空を超えて存在し、あらゆる真理を包含しています。

イエス・キリストの福音は、過去と現在の真理のみならず、これから現実となる真理をも包含しています。それはあらゆる真理の中でも最も実践的なものです。弟子としての在り方を教えてくれ、また、不完全でありふれた死すべき人を導き、栄光に満ちた、不滅で、無限の存在へと変えてくれる道です。そのような人の神聖な潜在能力は、わたしたちの限られた想像力では計り知ることはできません。

これが実践的な真理なのです。そ

こには想像をはるかに超えた価値があります。これが最も高いレベルの真理なのです。真理を探究し、発見し、実践することはわたしたちがこの地上において見いださなければならないことです。イエス・キリストの福音は、あらゆる真理を包含しています。それと同時に、この世においても、来るべき永遠の世においても、わたしたちにとって最も価値のある知識に焦点を当ててくれます。

その源が何であれ、真理を包含する教会の一員であること、そして将来さらに真理が授けられること、また「神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示される」ことを教える教会に所属していることは、何とすばらしい思いをもたらしてくれることでしょうか〔信仰簡条1:9〕。その結果、わたしたちは現在授かっている真理に対して謙遜になります。こうしてわたしたちは、自分の知識がまだ増えていく過程の不完全なもので、目の前にある葉はほんの小さな1枚、つまり膨大な知識という無限に広がる森の一部でしかないことを理解するのでした。■

2014年3月7日、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーにおけるブリガム・ヤング大学教会歴史シンポジウムでの「葉のかなたを見る」という講演から。



「アダムとエバ」
バサマのサンブラス諸島に暮らす、
クナインティアンによる織物

悪魔の誘惑を受け、アダムとエバは禁じられた果実を食べ、死すべき肉体を得た。エバはそれによってもたらされた祝福を証している。
「わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、穢れの喜びも、神がすべての従順な者に
与えてくださった永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。」(モ一セ5:11)

今月号のその他の記事

ヤングアダルト

主はわたしたちを救ってくださる



破壊的な地震が伝道部を襲ったとき、日本の宣教師たちは、主が導き守ってくださっていると感じました。

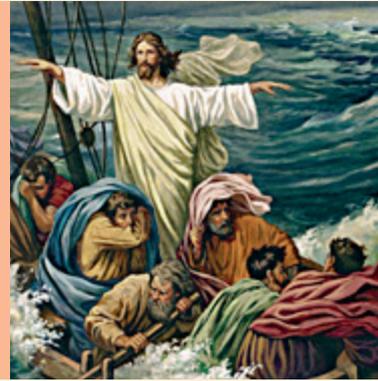
44
ページ

青少年

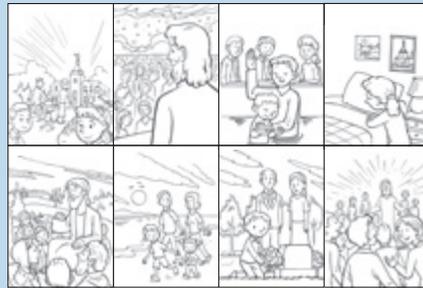
50
ページ

イエス・キリスト ——わたしたちの平安の源

ガリラヤの海で打ちつける波を静められたように、救い主はわたしたち一人一人に、永続する内なる平安という希望を与えてくださいます。



子供



幸福の 計画

切りぬいて色をぬり、天のお父様の幸福の計画についてさらに学びましょう!

70
ページ

末日聖徒
イエス・キリスト
教会



4

3